



防災井戸を中心とする災害時の水確保手法に関する  
アンケート調査（埼玉県さいたま市・岐阜県大垣市  
高齢者関連施設対象）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 遠藤, 崇浩, 飯塚, 智規 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/00017447">http://hdl.handle.net/10466/00017447</a>

防災井戸を中心とする災害時の水確保手法

に関するアンケート調査

(埼玉県さいたま市・岐阜県大垣市 高齢者関連施設対象)

令和3年6月

大阪府立大学現代システム科学域教授 遠藤崇浩

大阪府立大学地域防災センター客員研究員 飯塚智規

防災井戸を中心とする災害時の水確保手法に関するアンケート調査  
(埼玉県さいたま市・岐阜県大垣市 高齢者関連施設対象)

目次

I. 調査概要	1
1-1 はじめに	1
1-2 調査方法等	1
1-3 調査結果の概要	2
1-4 考察	11
1-5 おわりに	12
II. 調査結果	13
2-1 井戸所有状況	13
2-2 防災井戸の認知・活用	17
2-3 井戸以外の水確保手法	25
2-4 東日本大震災後の取組み	27
2-5 水確保上の懸念	29
III. 資料	33



## I. 調査概要

### 1-1. はじめに

本調査は内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「国家レジリエンス（防災・減災）の強化（災害時地下水利用システム開発）」（代表：沖大幹東京大学教授）の研究の一環で行ったものである。この研究プロジェクトは大規模災害が頻発する状況を背景に開始されたものであり、環境に大きな影響を及ぼすことなく非常時に利用可能な地下水量を三次元水循環解析モデルによって定量的に明らかにし、地域の実情に即した非常時地下水利用システムの構築に資する研究開発を制度面も含めて推進することを目的とする。

この全体構想を受け、本アンケートでは上記プロジェクトの重点研究対象計画地の一部である埼玉県さいたま市、岐阜県大垣市の高齢者関連施設を対象に、防災井戸を中心とする災害時の水確保手法の現況を調査した。防災井戸とは地域内に存在する井戸のうち、災害時に自家利用に加え、外部へも開放されるものを指す。高齢者関連施設を対象とした理由は、災害時の地下水利用の創意工夫を考えるにあたり災害弱者の視点が必要不可欠と考えるためである。調査結果の詳細は 13 頁以降に掲載する。

### 1-2. 調査方法等

- ① 調査対象：さいたま市、大垣市の高齢者関連施設 411 施設\*  
(さいたま市 293 施設、大垣市 118 施設)  
\*国土交通省国土数値情報ダウンロードサービスに含まれる福祉施設のうち、P14-006(福祉施設細分類コード)内の高齢者関連施設(0~299)に該当する施設を抽出したもの
- ② 調査方法：web アンケート方式
- ③ 調査時期：令和 3 年 2 月
- ④ 回収結果（全体）：109 施設（26.5%）
- ⑤ 回収結果（地域別）：さいたま市 73 施設（24.9%）大垣市 36 施設（30.5%）、

### 1-3. 調査結果の概要

#### (1) 井戸の保有状況

施設の給水設備に関し、①「井戸を持っている」、②「井戸を持っていない」という2択の回答を用意した。さいたま市については73施設から回答があり、①「井戸を持っている」が4.1% (3件)、②「井戸を持っていない」が95.9% (70件)となった。大垣市については36施設から回答があり、①「井戸を持っている」が38.9% (14件)、②「井戸を持っていない」が61.1% (22件)となった。さいたま市では井戸がさほど普及していないのに対し、大垣市では井戸がある程度利用されていることになる(図1-1)。

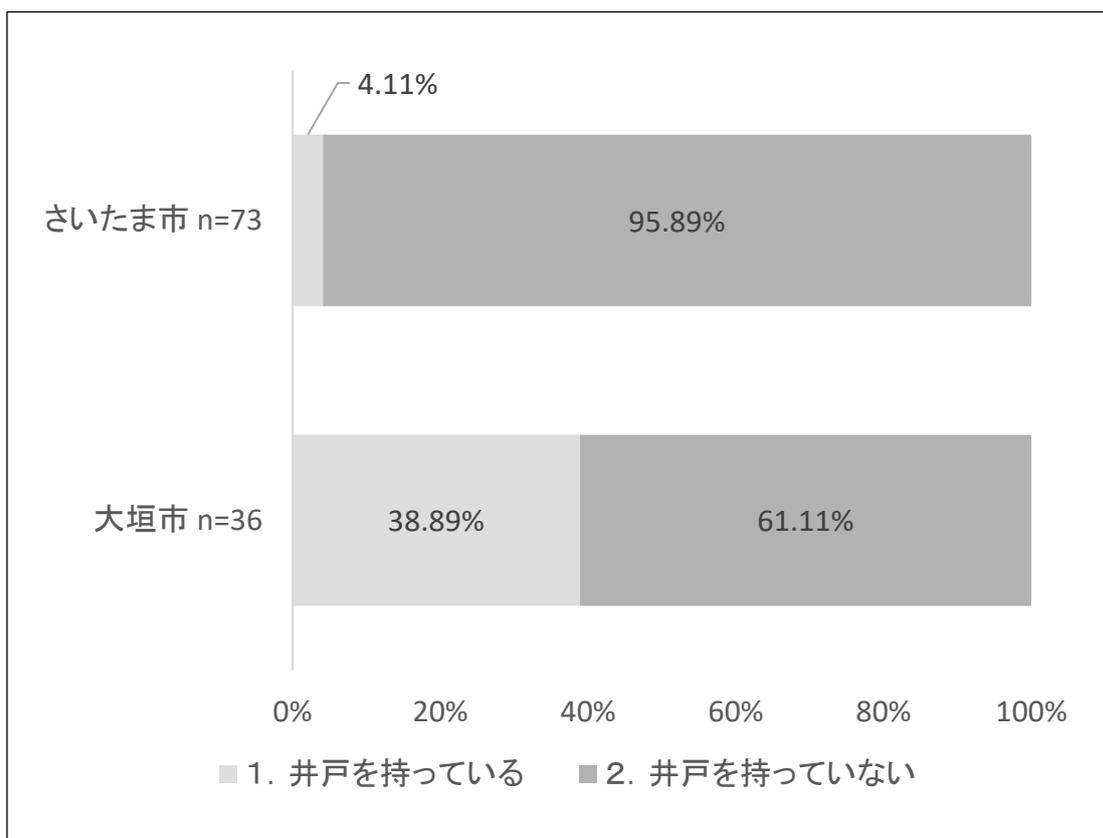


図 1-1 井戸の所有状況

#### (2) 防災井戸の認知度

施設が位置する市区町村が実際に防災井戸を導入しているかどうかは別として、このしぐみの存在自体は知っているかどうか尋ねた。回答の選択肢は①「知っている」、②「知らない」であり、どちらか一つを選ぶ方式とした。この問いは井戸を持つ施設、持たない施設双方に尋ねた。両者の回答を統合すると以下のような結果となる。

さいたま市については73施設から回答があり、①「知っている」が31.5% (23件)、②「知らない」が68.5% (50件)となった。大垣市については35施設から回答があり、①「知っている」が22.9% (8件)、②「知らない」が77.1% (27件)となった(図1-2)。

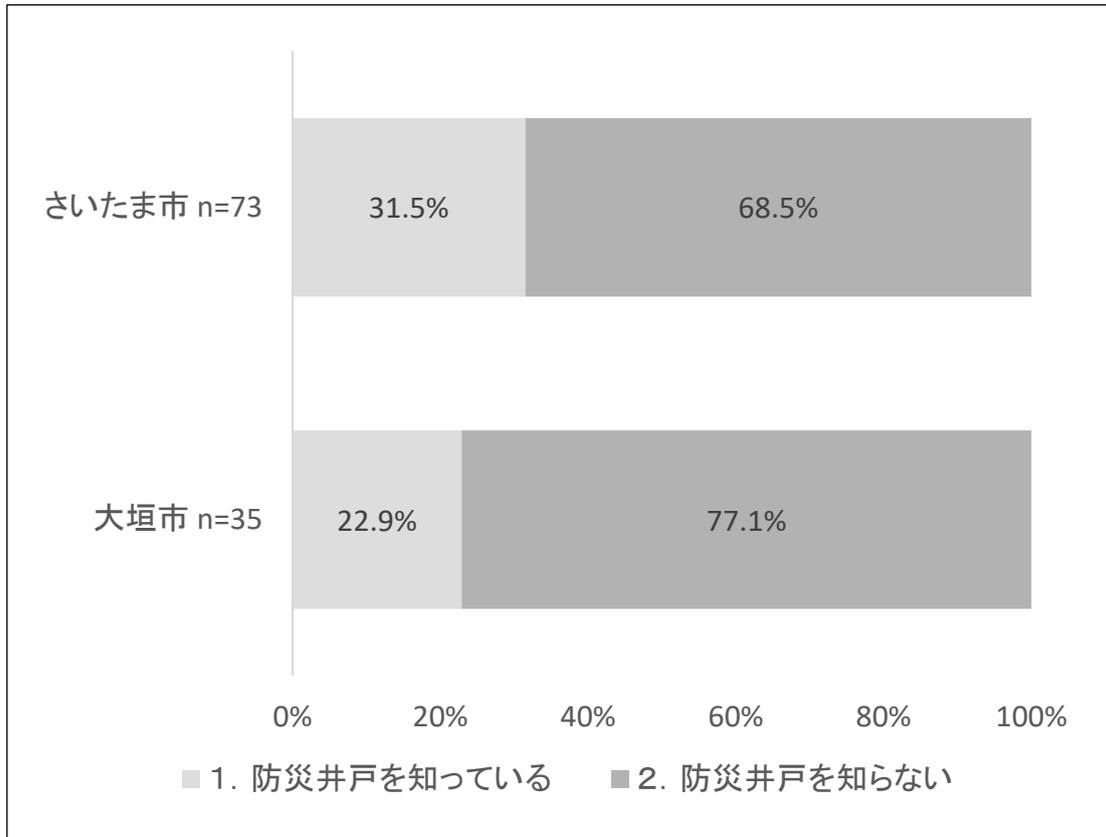


図 1-2 防災井戸の認知度

### (3) 近隣井戸の活用計画

井戸を備えていない施設に対し近隣の井戸を利用する計画の有無を尋ねた。さいたま市については 70 施設から回答があり、①「近隣の井戸を利用する計画を持っている」が 2.9% (2 件)、②「近隣の井戸を利用する計画はない」が 97.1% (68 件) となった。大垣市については 25 施設から回答があり、①「近隣の井戸を利用する計画を持っている」が 8% (2 件)、②「近隣の井戸を利用する計画はない」が 92% (23 件) となった (図 1-3)。断水の備えとして井戸の活用を考えている施設はごく限られていることになる。

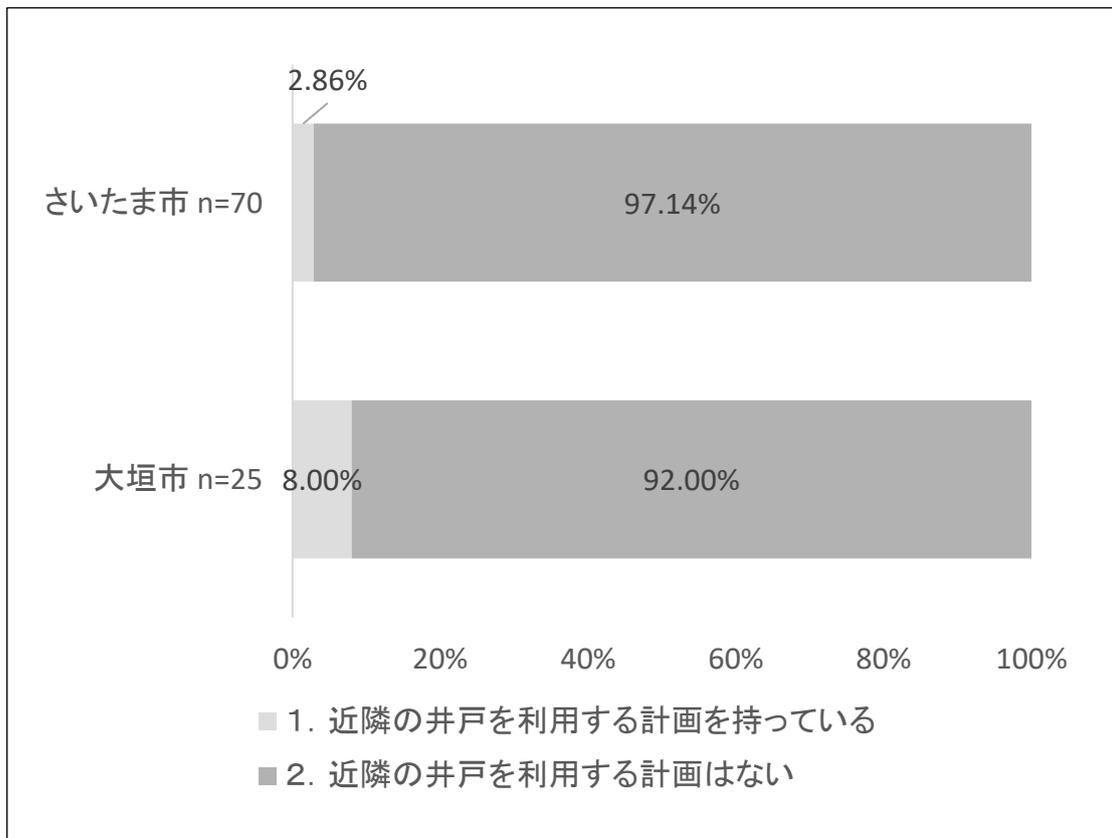


図 1-3 近隣井戸の活用計画

「近隣の井戸を利用する計画はない」とした回答した施設に理由を尋ねた。選択肢は①「近隣に井戸がない」、②「近隣に井戸があるかどうか把握していない」、③「近隣に井戸はあるが、実際に水を分けてもらえるか不明」、④「近隣に井戸はあるが、水を運ぶ人手が足りない」、⑤「近隣に井戸はあるが、水質上の懸念がある」、⑥「備蓄など井戸に頼らない事前準備を整えている」、⑦「その他(具体的に)」である。回答は複数選択可とした。

さいたま市については 68 件の回答があり、①「近隣に井戸がない」が 19.1% (13 件)、②「近隣に井戸があるかどうか把握していない」が 75% (51 件)、③「近隣に井戸はあるが、実際に水を分けてもらえるか不明」が 7.4% (5 件)、④「近隣に井戸はあるが、水を運ぶ人手が足りない」が 5.9% (4 件)、⑤「近隣に井戸はあるが、水質上の懸念がある」が 7.4% (5 件)、⑥「備蓄など井戸に頼らない事前準備を整えている」が 29.4% (20 件)、⑦「その他(具体的に)」が 5.9% (4 件) という結果になった。

大垣市については 24 件の回答があり、①「近隣に井戸がない」が 4.2% (1 件)、②「近隣に井戸があるかどうか把握していない」が 75% (18 件)、③「近隣に井戸はあるが、実際に水を分けてもらえるか不明」が 16.7% (4 件)、④「近隣に井戸はあるが、水を運ぶ人手が足りない」が 16.7% (4 件)、⑤「近隣に井戸はあるが、水質上の懸念がある」が 16.7% (4 件)、⑥「備蓄など井戸に頼らない事前準備を整えている」が 12.5% (3 件)、⑦「その他(具体的に)」が 0% (0 件) という結果になった (図 1-4)。

両地域とも②「近隣に井戸があるかどうか把握していないため」という回答が突出して多い結果となった。これは防災井戸の利用を進める際、井戸の場所の事前広報が重要となることを示唆している。

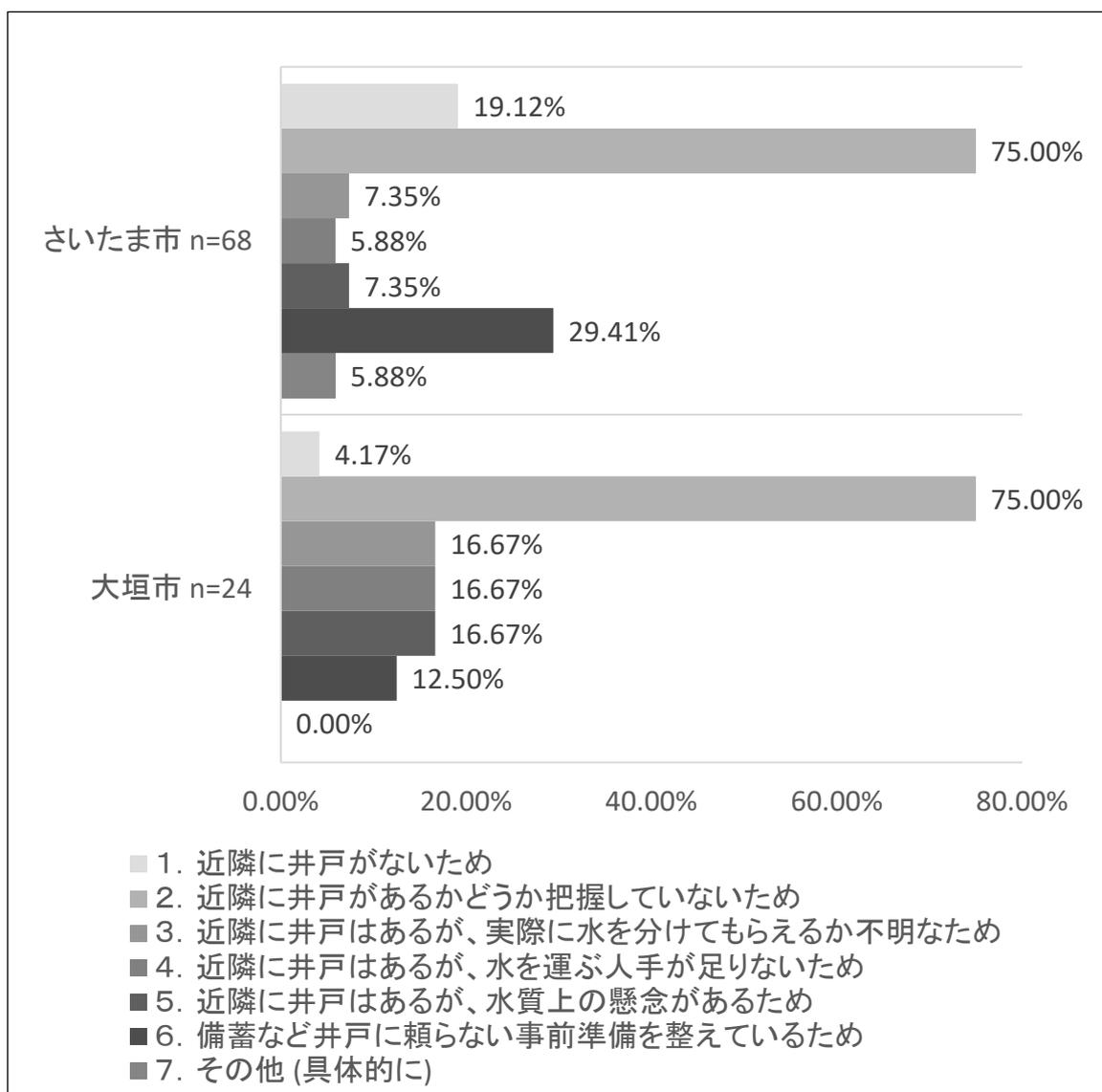


図 1-4 近隣井戸の活用計画を持たない理由

#### (4) 井戸以外の手段

本研究では井戸以外の水確保手法についても尋ねた。飲用水（調理用を含む）の確保について、①「自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる」、②「自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる」、③「自治体の給水車を利用する」、④「民間外部団体と給水協定を締結する」、⑤「計画を立てていない」、⑥「その他（具体的に）」という選択肢を提示した。なお回答は複数選択可とした。

さいたま市については 71 件の回答があり、①「自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる」が 47.9%（34 件）、②「自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる」が 88.7%（63 件）、③「自治体の給水車を利用する」が 23.9%（17 件）、④「民間外部団体と給水協定を締結する」が 1.4%（1 件）、⑤「計画を立てていない」が 1.4%（1 件）、⑥「その他（具体的に）」が 2.8%（2 件）という結果になった。大垣市については 34 件の回答があり、①「自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる」が 32.4%（11 件）、②「自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる」が 79.4%（27 件）、③「自治体の給水車を利用する」が 52.9%（18 件）、④「民間外部団体と給水協定を締結する」が 5.9%（2 件）、⑤「計画を立てていない」が 5.9%（2 件）、⑥「その他（具体的に）」が 8.8%（3 件）という結果になった（図 1-5）。

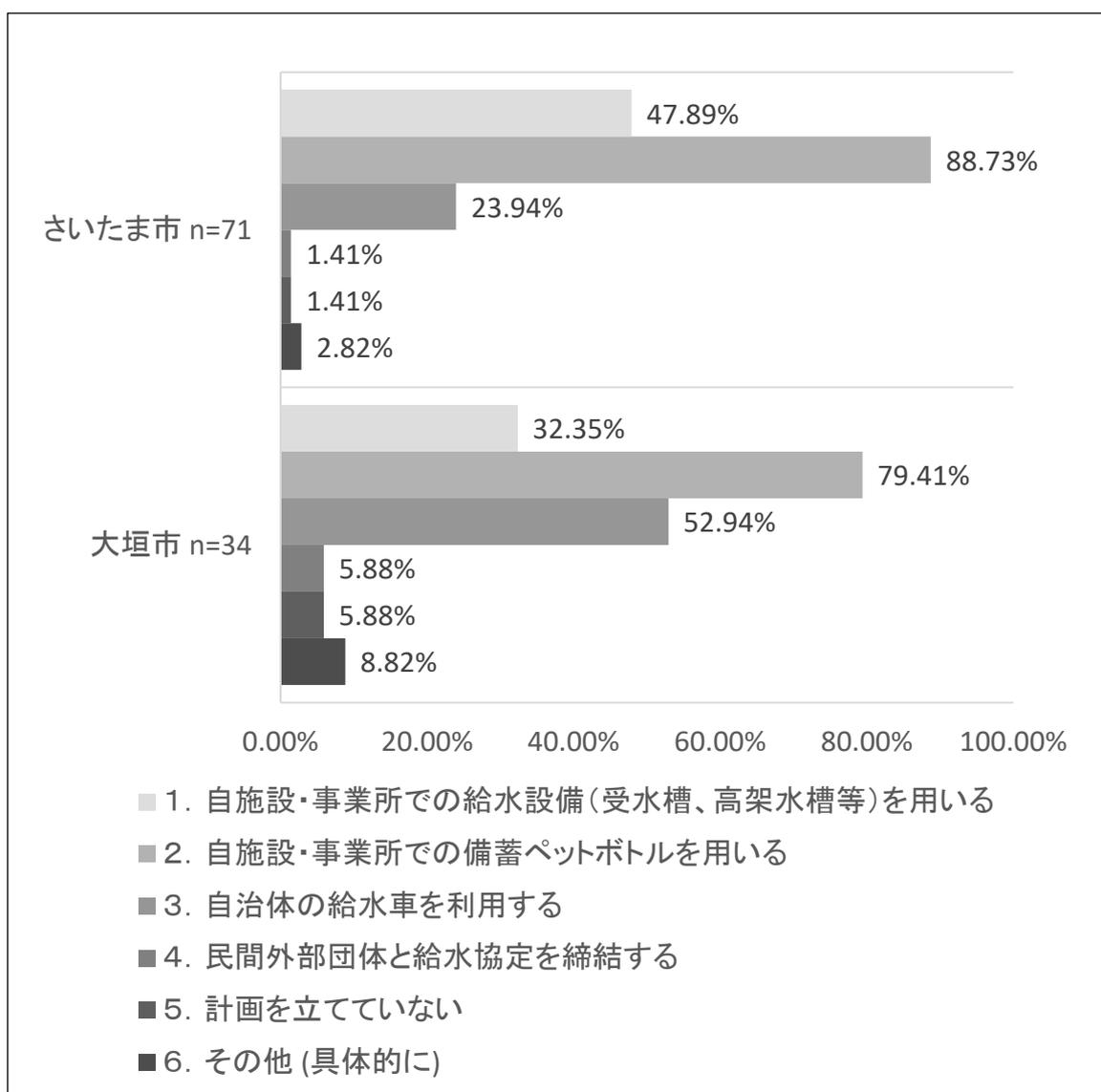


図 1-5 井戸以外の水確保手法（飲用水）

生活用水（トイレ、洗濯、入浴）の確保についても同様の選択肢を提示したところ、以下のような結果となった。すなわち、さいたま市からは71件の回答があり、①「自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる」が50.7%（36件）、②「自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる」が52.1%（37件）、③「自治体の給水車を利用する」が25.4%（18件）、④「民間外部団体と給水協定を締結する」が2.8%（2件）、⑤「計画を立てていない」が18.3%（13件）、⑥「その他（具体的に）」が12.7%（9件）であった。大垣市からは35件の回答があり、①「自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる」が31.4%（11件）、②「自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる」が48.6%（17件）、③「自治体の給水車を利用する」が57.1%（20件）、④「民間外部団体と給水協定を締結する」が2.9%（1件）、⑤「計画を立てていない」が11.4%（4件）、⑥「その他（具体的に）」が11.4%（4件）であった（図1-6）。

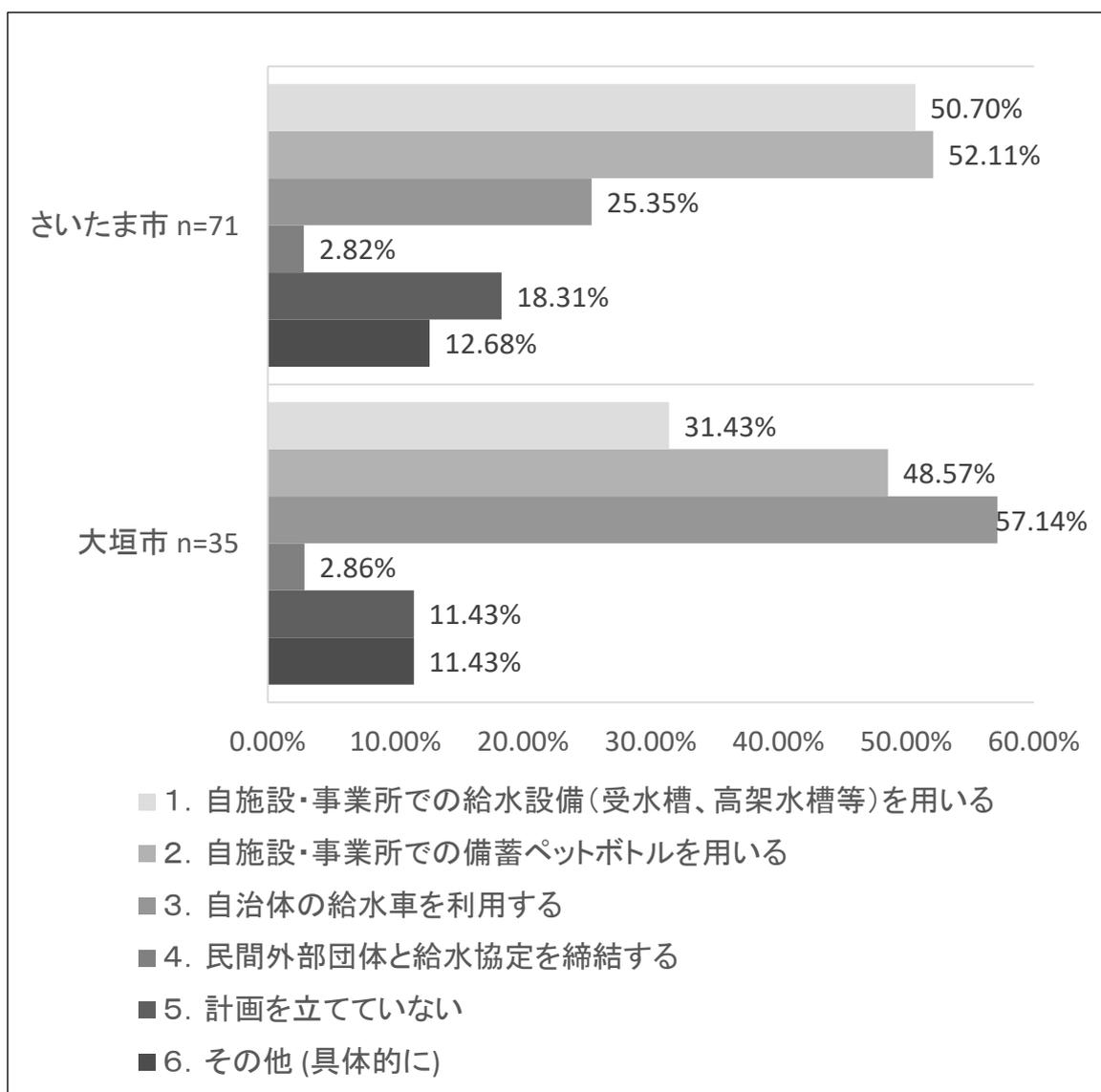


図 1-6 井戸以外の水確保手法（生活用水）

## (5) 東日本大震災以降の取り組み

本研究では東日本大震災後 10 年間の新たな取り組みについても尋ねた。飲用水（調理用を含む）の確保方法について、①「自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した」、②「自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした」、③「自施設・事業所に井戸を整備した」、④「近隣の井戸の所在を確認した」、⑤「地元市役所と応急給水に関して協議した」、⑥「企業や NPO など民間組織と応急給水に関して協議した」、⑦「特に講じていない」、⑧「その他」という選択肢を設けた。なお回答は複数選択可とした。

さいたま市からは 71 件の回答があり、①「自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した」が 9.9% (7 件)、②「自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした」が 78.9% (56 件)、③「自施設・事業所に井戸を整備した」が 1.4% (1 件)、④「近隣の井戸の所在を確認した」が 4.2% (3 件)、⑤「地元市役所と応急給水に関して協議した」が 1.4% (1 件)、⑥「企業や NPO など民間組織と応急給水に関して協議した」が 4.2% (3 件)、⑦「特に講じていない」が 12.7% (9 件)、⑧「その他」が 4.2% (3 件) であった。

大垣市からは 35 件の回答があり、①「自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した」が 2.9% (1 件)、②「自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした」が 54.3% (19 件)、③「自施設・事業所に井戸を整備した」が 5.7% (2 件)、④「近隣の井戸の所在を確認した」が 8.6% (3 件)、⑤「地元市役所と応急給水に関して協議した」が 8.6% (3 件)、⑥「企業や NPO など民間組織と応急給水に関して協議した」が 11.4% (4 件)、⑦「特に講じていない」が 28.6% (10 件)、⑧「その他」が 2.9% (1 件) であった (図 1-7)。

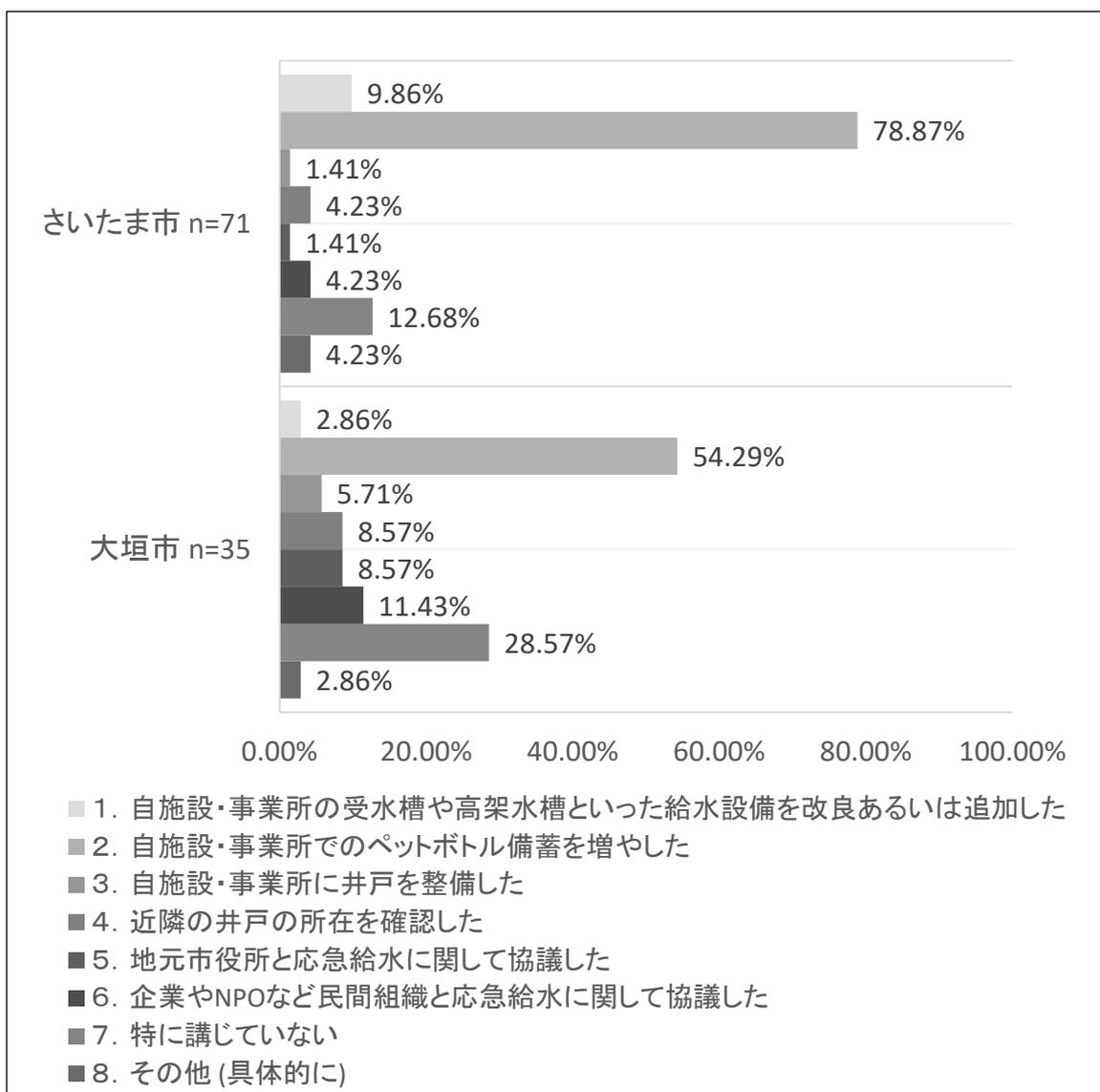


図 1-7 東日本大震災後の新たな取り組み（飲用水確保）

生活用水（トイレ、洗濯、入浴）の確保についても同様の選択肢を提示したところ、以下のような結果となった。すなわち、さいたま市からは 71 件の回答があり、①「自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した」が 4.2%（3 件）、②「自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした」が 53.5%（38 件）、③「自施設・事業所に井戸を整備した」が 2.8%（2 件）、④「近隣の井戸の所在を確認した」が 5.6%（4 件）、⑤「地元市役所と応急給水に関して協議した」が 1.4%（1 件）、⑥「企業や NPO など民間組織と応急給水に関して協議した」が 14.1%（10 件）、⑦「特に講じていない」が 26.8%（19 件）、⑧「その他」が 5.6%（4 件）であった。

大垣市からは 35 件の回答があり、①「自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した」が 2.9%（1 件）、②「自施設・事業所でのペットボトル備蓄

を増やした」が 28.6% (10 件)、③「自施設・事業所に井戸を整備した」が 5.7% (2 件)、④「近隣の井戸の所在を確認した」が 11.4% (4 件)、⑤「地元市役所と応急給水に関して協議した」が 8.6% (3 件)、⑥「企業や NPO など民間組織と応急給水に関して協議した」が 5.7% (2 件)、⑦「特に講じていない」が 51.4% (18 件)、⑧「その他」が 5.7% (2 件)であった (図 1-8)。

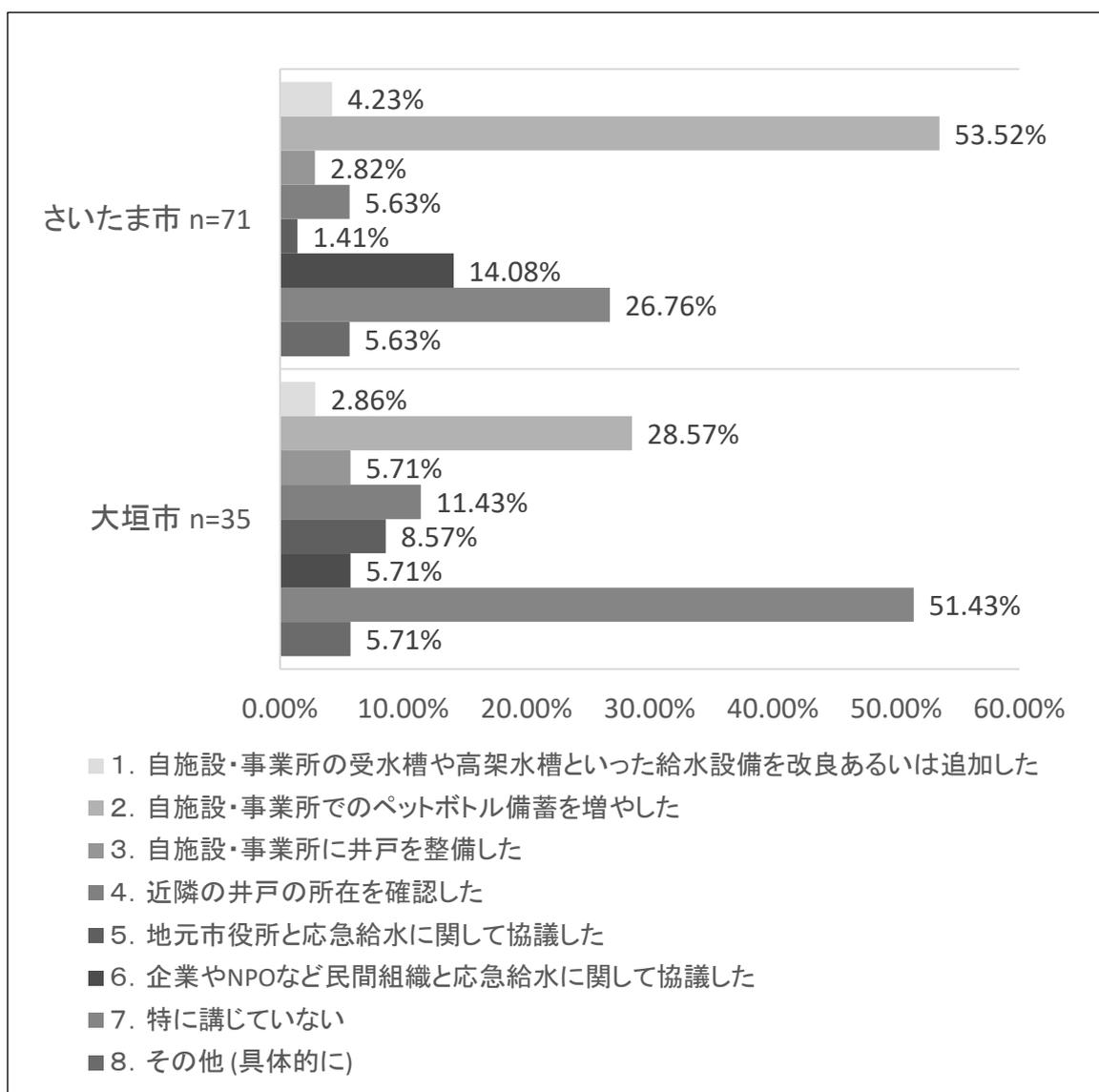


図 1-8 東日本大震災後の新たな取り組み (生活用水確保)

#### 1-4. 考察

本調査から、次の3点が指摘できる。

##### ① 緊急時の地下水利用

大垣市では井戸を持つと回答した高齢者関連施設がある程度存在していたのに対し、さいたま市ではその数はごく少数に留まった（図 1-1）。また防災井戸のしくみそのものについてはある程度認識されているものの、実際に近隣井戸の活用計画があると回答した施設数は非常に少ない（図 1-2；図 1-3）。これらを考えると、調査対象地の高齢者関連施設においては緊急時の地下水利用はほとんど想定されていないと考えられる。

##### ② 井戸の認知度

多くの回答者が「近隣井戸を利用する計画はない」としているが、その理由として近隣に井戸があるかどうか把握していないことを掲げている（図 1-4）。遠藤・森・沖（2020）によると、さいたま市では既に防災井戸のしくみが存在し、公設の「非常災害用井戸」と家庭井戸などを利用する「防災対策用指定井戸」の双方を併せて 600 件を超える井戸が市内各地に存在している<sup>1)</sup>。大垣市は防災井戸のしくみをまだ発足させていないが、「水都大垣」を掲げるなど地下水に恵まれた場所として知られている<sup>2)</sup>。このような状況にあってもなお近隣に井戸があるかどうか把握していないとの回答が多く寄せられていることは、防災井戸の普及を試みるならば、その広報活動が大きな政策課題になることを示唆している。

1) 遠藤崇浩・森吉尚・沖大幹（2020）災害用井戸の現況と課題—政令指定都市を中心に—。水文・水資源学会誌. 33(4). 144-155.

2) 浅井和由・安田守・島野安雄（2007）名水を訪ねて（79）大垣の地下水。地下水学会誌. 49(4).341-353.

##### ③ 井戸以外の水確保手段について

井戸以外の水確保手段についていえば、「自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる」、「自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる」、「自治体の給水車を利用する」との回答が多かった。しかし飲用水と生活用水とでは組み合わせパターンが少し異なっている。すなわち飲用水の確保手段について、回答者のおよそ 8 割（大垣市）もしくはそれ以上（さいたま市）が備蓄ペットボトルの活用を挙げているのに対し（図 1-5）、生活用水の確保手段についてはその値は 5 割程度に落ちている（図 1-6）。

この背景として次の点が考えられる。飲用水については一人当たりの必要確保量（最低 3 リットル/日）が生活用水に比べると少なく、時間の流れが経過してもその量はあまり変化しない。しかし生活用水については災害発生直後こそ少量で済むかもしれないが、時間の流れが経過するとともに一人当たりの必要量は拡大する（最低 20 リットル/日）。このため長

期的な計画を立てにくい。またこれは備蓄スペースのなさという物理的制約にもつながる。最低でも飲用水の6~7倍の量が必要とされる生活用水を備蓄ペットボトルで賄おうとすれば大量の貯蔵が必要になるが、あらゆる施設でその空間を確保できる保証はない。

生活水の代替的な確保手段として「自施設・事業所での給水設備(受水槽、高架水槽等)を用いる」「自治体の給水車を利用する」が選ばれているかという点、飲用水のケースと比較してもさほど数値には変化が見られない。その代わり生活水の確保手段については「計画を立てていない」との回答が増えており、対応に苦慮している様子が伺える(図 1-6)。

### 1-5. おわりに

高齢者関連施設は災害弱者の典型例であり、震災後の水確保は大きな課題である。調査対象地は限られているものの、今回のアンケートは水確保の手段が自助と公助に頼る部分が多く、共助の活用が少ない現状を示している。

ここでいう自助とは自施設で取り組む災害対策であり、ペットボトル備蓄を増やす、自施設の受水槽を活用するといった取り組みである。また公助とは自治体による給水車の活用を指す。共助は地域コミュニティによる対応策であり、地域に散在する井戸の開放がその一例であるが、今回のアンケートでは井戸の利用が積極的に計画されているとは言い難い実態が明らかになった。

飲用水はまだしも生活水には大量の水が必要であり、ペットボトル備蓄を中心とする自助での対応は保管スペースの確保を一つとっても困難である。この点、地下水は降水量および採取技術に左右される部分はあるものの、天然の備蓄庫に蓄えられている資源である。地下水を飲用に用いる場合、水質上の懸念があるが、トイレ洗浄等に用いるならば清浄さはさほど問題にならない。しかしながら東日本大震災後の対策をみても井戸の活用を掲げた回答は多いとは言えない状況にある(図 1-7 ; 図 1-8)。井戸だけで全ての水需要を賄える保証はないものの、地下水は重要な補完水源になり得るものであり、その有効活用に向けた取り組みを考察していく必要がある。

## I I . 調査結果

Q1 回答者様の団体名と所在地をご記入ください。

本質問の回答については省略する。

### 2-1 井戸所有状況

Q2 貴施設の現在の給水設備をお尋ねします。井戸をお持ちですか？下記から一つだけ選択してください。→「1」を選んだ方は Q3 説明文へ、「2」を選んだ方は Q6 説明文へ進んでください。

さいたま市では井戸を備える施設は少ないが、大垣市では回答者の 4 割弱が井戸を備えていると回答した。

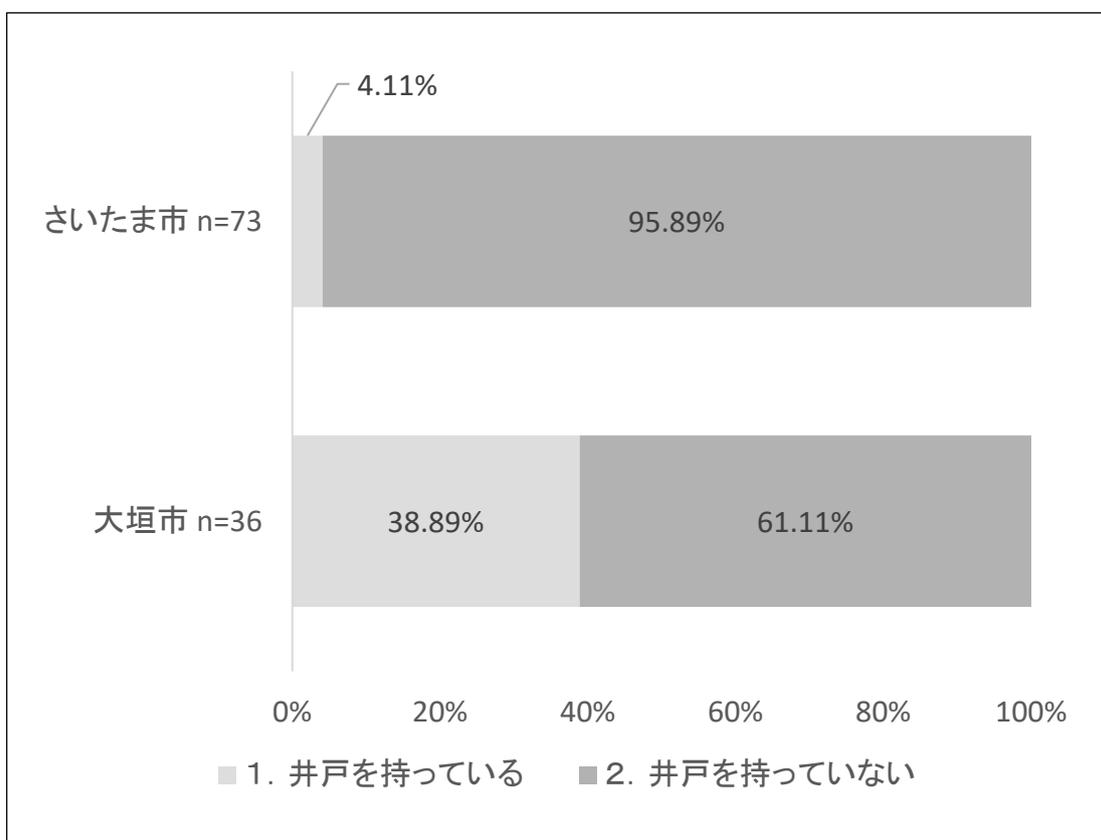


図 2-1-1 井戸の所有状況

Q3 【Q2で「1」（井戸を持っている）を選んだ方のみ回答してください】

説明文：日本の市区町村の中には、井戸を持つ一般家庭・企業・事業所等が、災害時に井戸水を自家利用するだけでなく、近隣住民にも提供するボランティア登録のしくみを導入しているところがあります。これは広く防災井戸と呼ばれています。これを念頭に、以下の質問にご回答ください。まず防災井戸というしくみの認知度をお尋ねします。貴施設が位置する市区町村が実際に防災井戸を導入しているかどうかは別として、このしくみの存在自体は知っていましたか？下記から一つだけ選択してください。

さいたま市で井戸を所有しているとした施設の中で、防災井戸の仕組みを知っている回答者はゼロだった。大垣市では井戸を所有しているとした施設の中で、防災井戸の仕組みを知っている回答者は35%となった。

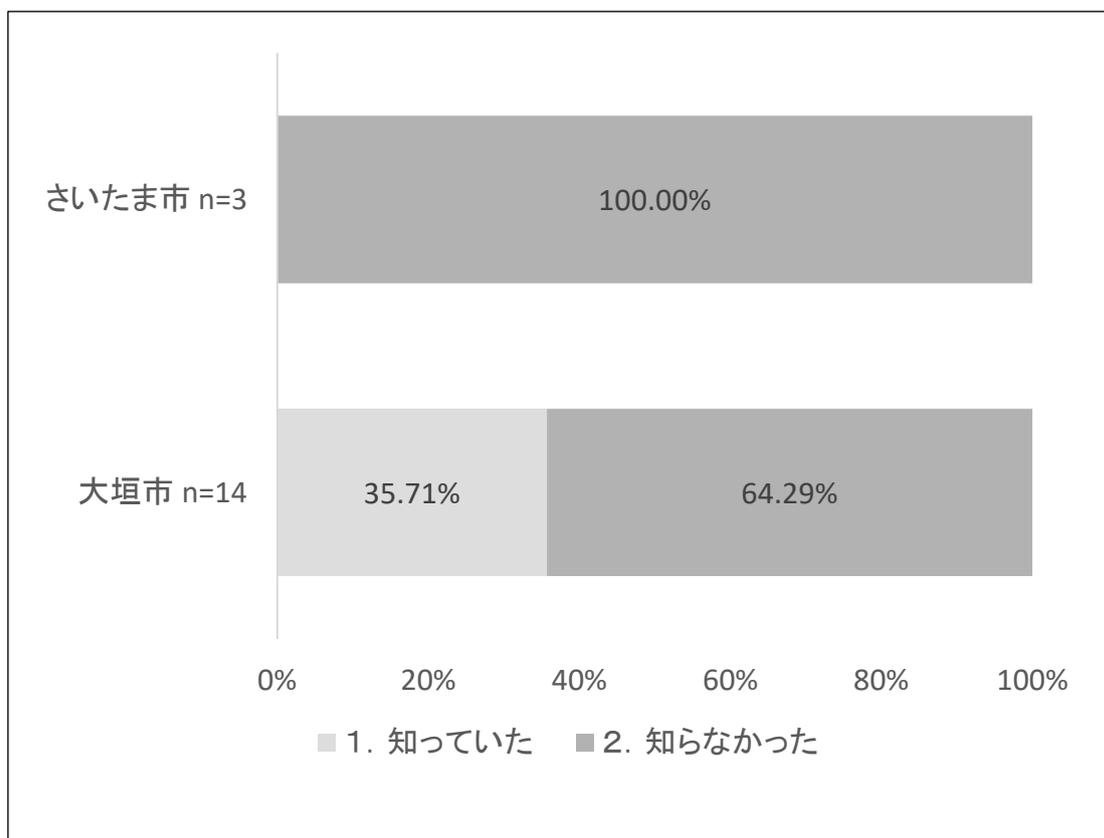


図 2-1-2 防災井戸の認知度（井戸所有施設）

Q4 災害時における井戸水提供への協力意向についてお尋ねします。井戸をお持ちのことですが、貴施設は外部からの依頼があれば、井戸からくみ上げた地下水を近隣に提供しますか？下記から一つだけ選択してください。

どちらの地域でも回答者はすべて「提供する」を選択した結果となった。

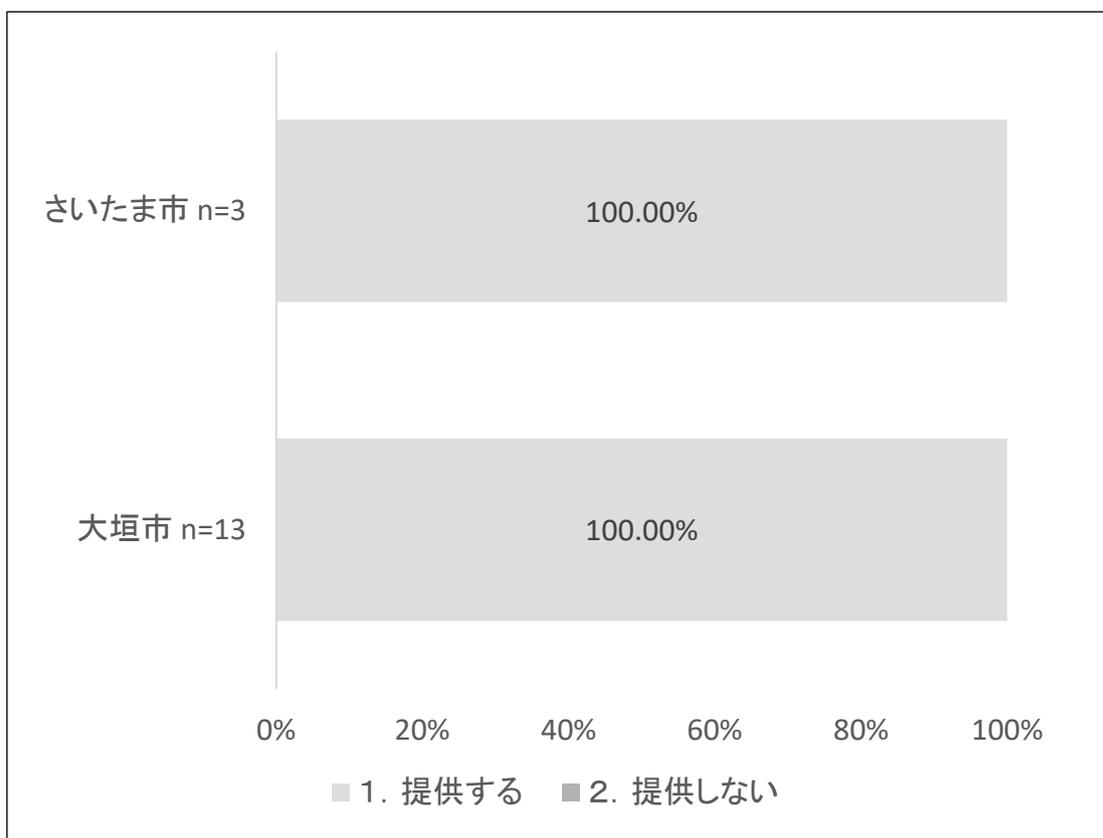


図 2-1-3 井戸水提供の意向

Q5 今度は災害時における井戸の自家利用についてお尋ねします。井戸をお持ちのことですが、災害時その地下水は何に使うご予定ですか？下記から一つだけ選択してください。

両地域とも「飲用」「生活用」「消火用」間の併用を想定する回答が多い結果となった。

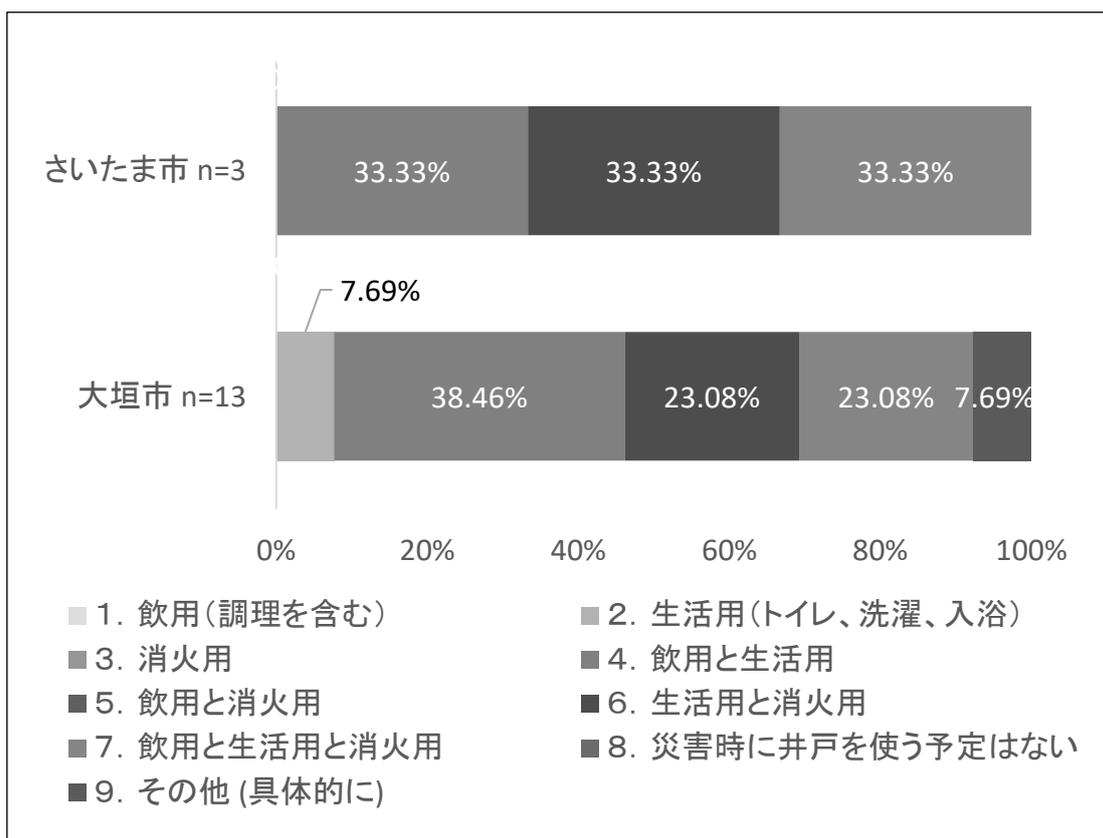


図 2-1-4 井戸の自家利用目的

## 2-2 防災井戸の認知・活用

Q6 【Q2で「2」（井戸を持っていない）を選んだ方のみ回答してください】

説明文：日本の市区町村の中には、井戸をもつ一般家庭・企業・事業所等が、災害時に井戸水を自家利用するだけでなく、近隣住民にも提供するボランティア登録のしくみを導入しているところがあります。これは広く防災井戸と呼ばれています。ここから貴施設が災害時にこうした外部の井戸を利用するご意向があるかどうか等の質問をさせていただきます。これを念頭に、以下の質問にご回答ください。まず防災井戸というしくみの認知度をお尋ねします。貴施設が位置する市区町村が実際に防災井戸を導入しているかどうかは別として、このしくみの存在自体は知っていましたか？下記から一つだけ選択してください。

さいたま市で井戸を所有していないとした施設の中で、防災井戸の仕組みを知っている回答者は33%だった。大垣市では井戸を所有していないとした施設の中で、防災井戸の仕組みを知っている回答者は14%となった。

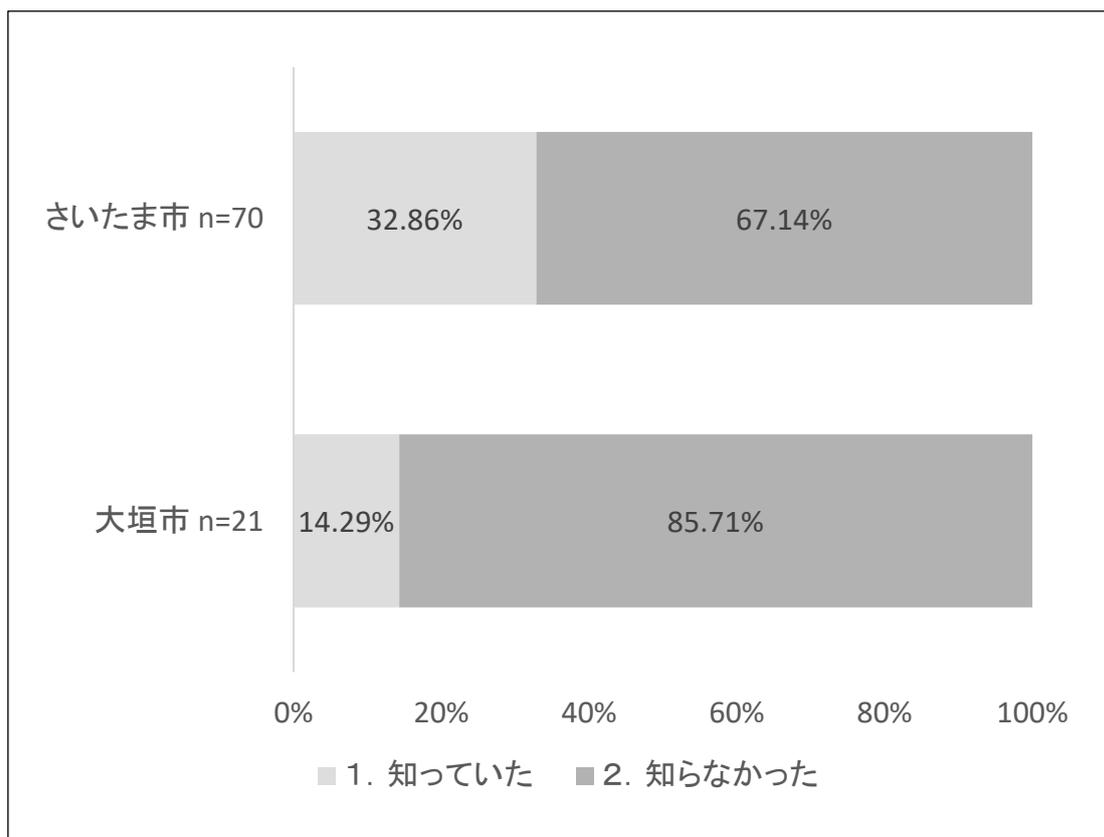


図 2-2-1 防災井戸の認知（井戸を持たない施設）

Q7 災害時の地下水利用への意向をお尋ねします。貴施設は断水への備えとして、近隣の井戸を利用する計画をお持ちですか？下記から一つだけ選択してください。→「1」を選んだ方は Q8 へ、「2」を選んだ方は Q13 へ進んでください。

両地域とも断水の備えとして地下水を利用する計画があるとした回答者は 1 割に満たない結果となった。

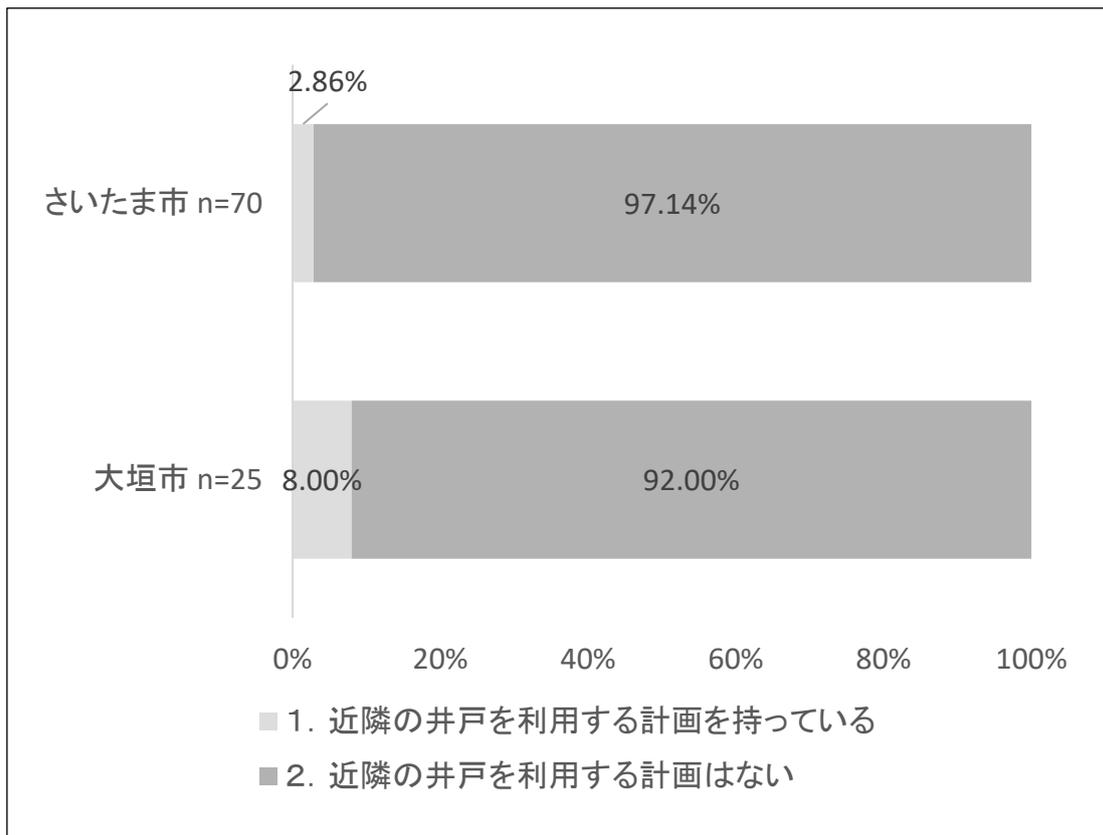


図 2-2-2 近隣井戸の活用計画

Q8 Q7で「1」（近隣の井戸を利用する計画を持っている）を選んだ方のみ回答してください。その水は何に利用しますか？下記から一つだけ選択してください。

近隣井戸の用途についていえば、さいたま市の回答者はすべて「生活用（トイレ、洗濯、入浴）」を選び、大垣市の回答者はすべて「生活用と消火用」を選んだ。飲用を視野に入れている回答者はゼロだった。

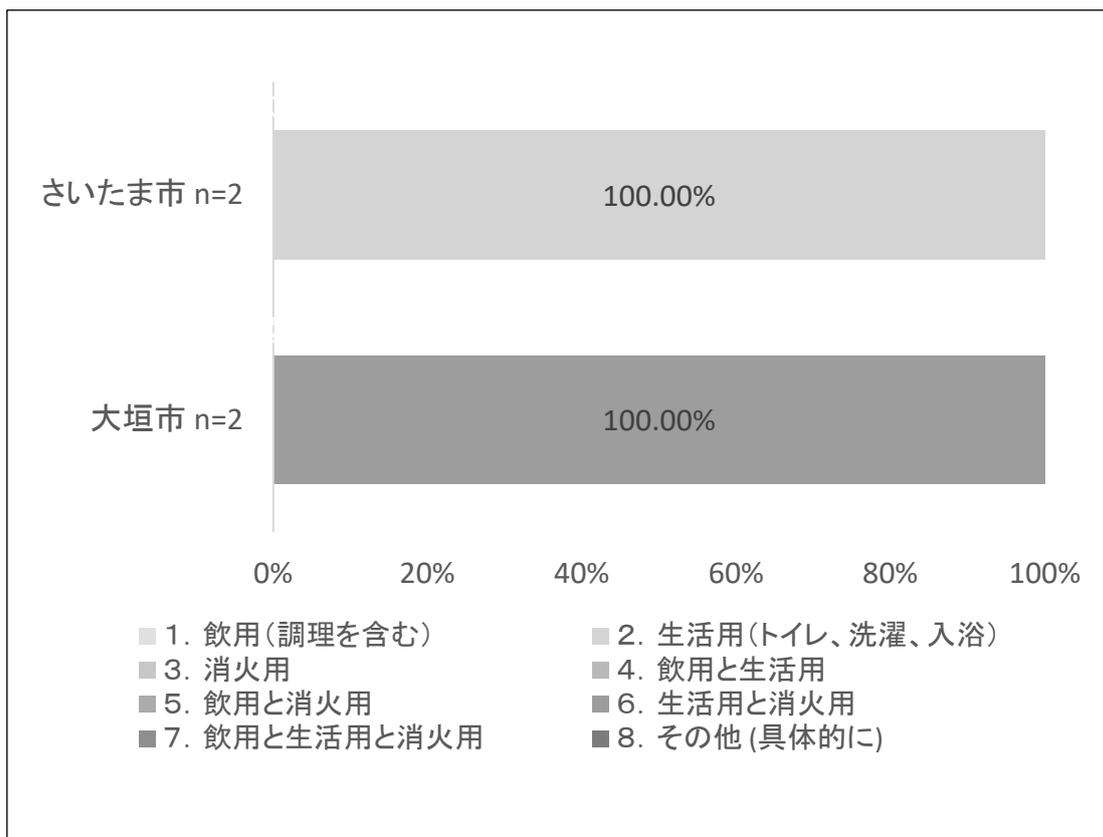


図 2-2-3 井戸水の想定用途

Q9 Q7で「1」（近隣の井戸を利用する計画を持っている）を選んだ方のみ回答してください。井戸の場所まで調べましたか？下記から一つだけ選択してください。→「1」を選んだ方はQ10へ、「2」「3」を選んだ方はQ14へ進んでください。

さいたま市・大垣市のいずれの回答者も井戸の場所まで調べて、場所を特定していると回答した。

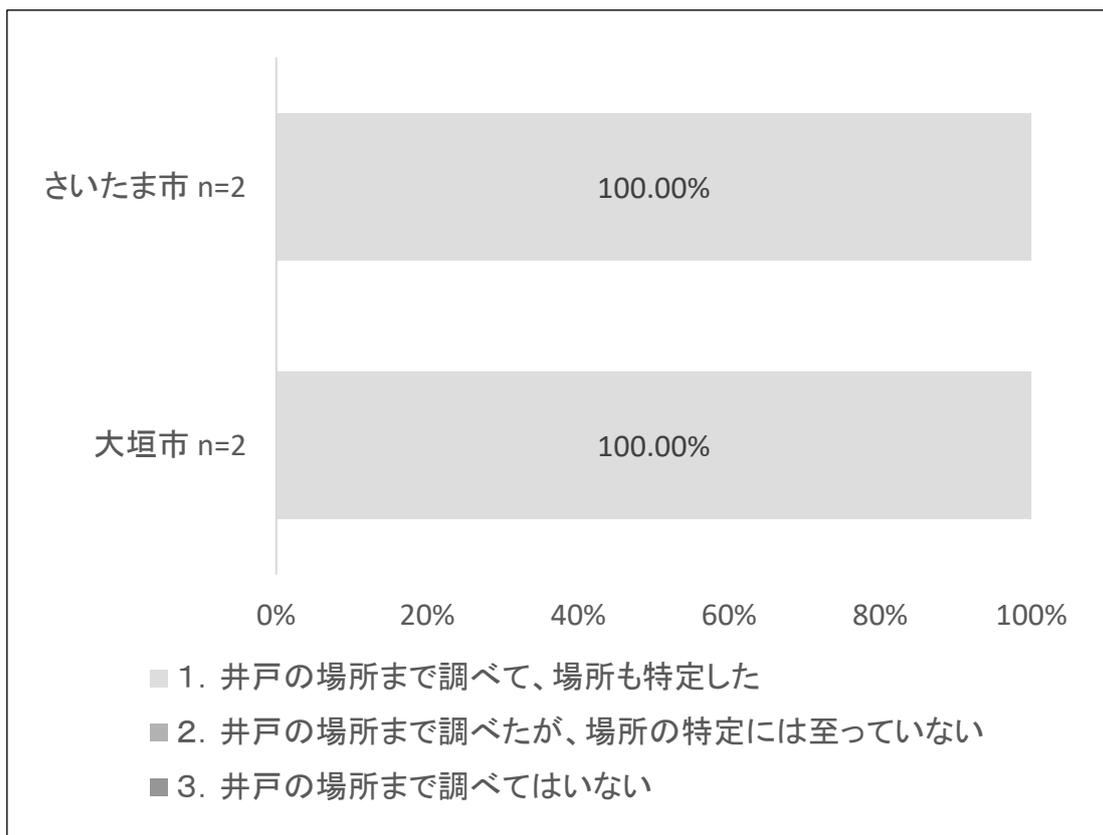


図 2-2-4 井戸の場所の把握状況

Q10 Q9で「1」（井戸の場所まで調べて、場所も特定した）を選んだ方のみ回答してください。どなたの井戸ですか？あてはまるものすべてお選びください。

戸建ての井戸の利用が想定されている結果となった。またさいたま市施設からの回答にある「その他」は「系列の有料老人ホームの井戸」であった。大垣市施設からの回答にある「その他」は「農業用井戸」であった。

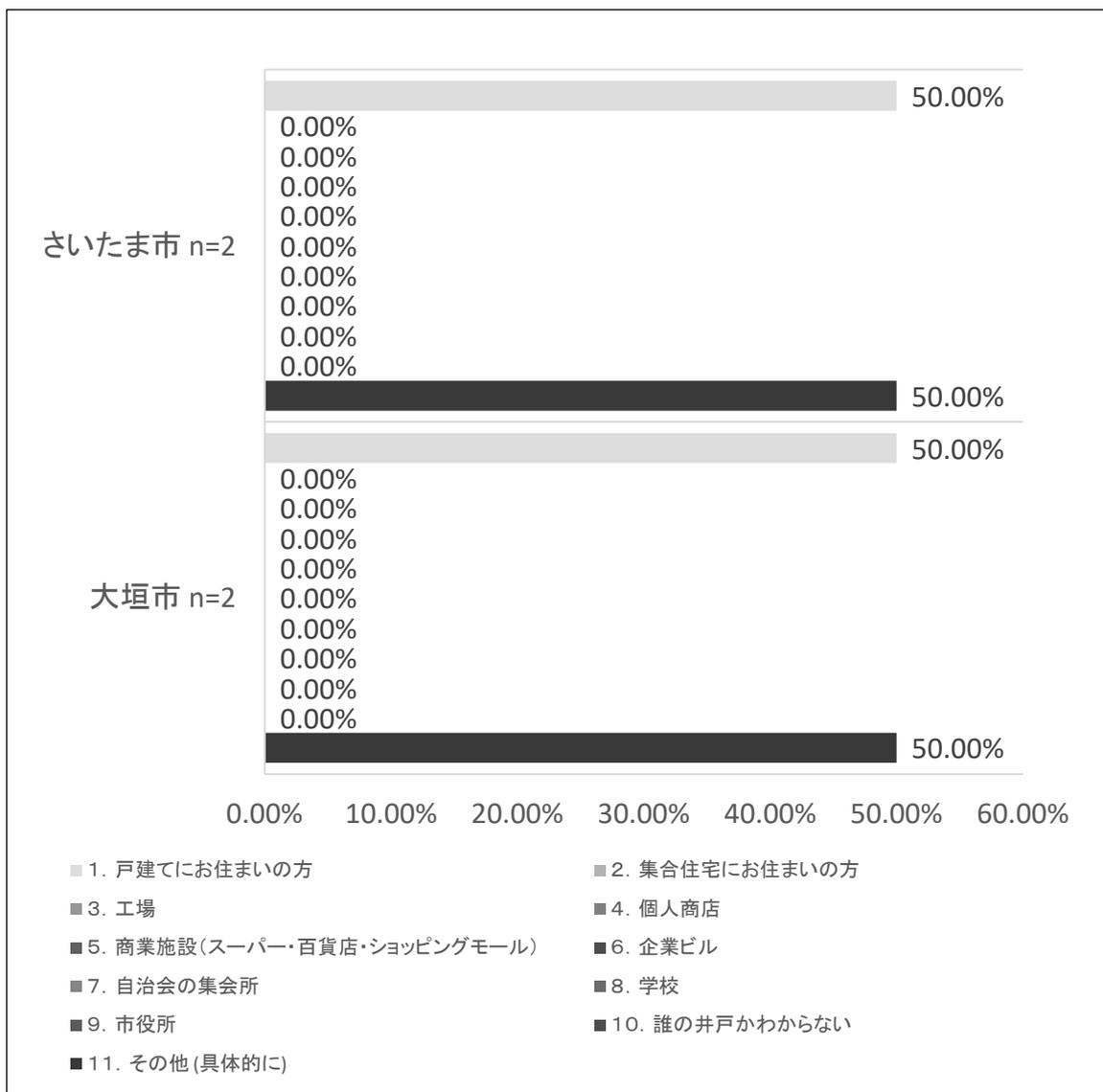


図 2-2-5 井戸の持ち主

Q11 Q9で「1」（井戸の場所まで調べて、場所も特定した）を選んだ方のみ回答してください。その井戸がある場所は貴施設からどれくらいの距離でしょうか？下記から一つだけ選択してください。複数場所がある場合、最も遠い場所を想定して、下記から1つお選びください。

いずれの施設も徒歩5分未満の近隣井戸を想定している結果となった。

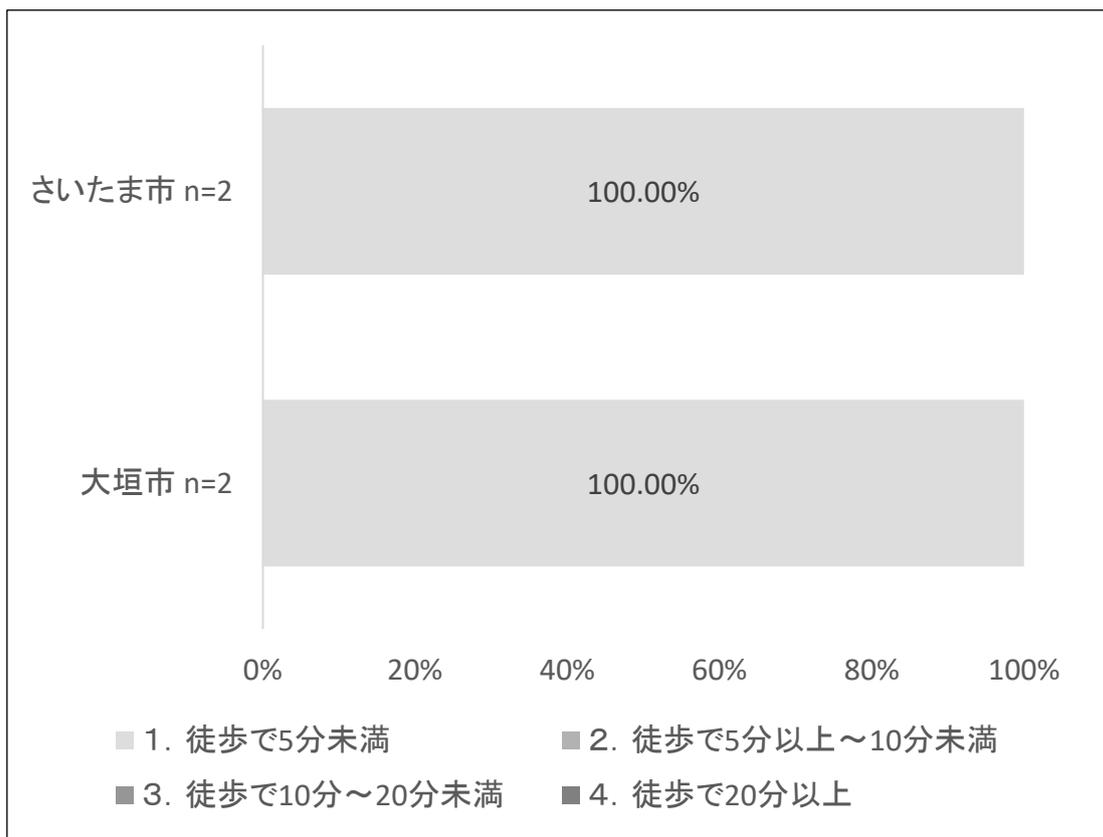


図 2-2-6 井戸までの所要時間

Q12 Q9で「1」（井戸の場所まで調べて、場所も特定した）を選んだ方のみ回答してください。井戸の場所をどのように知ったのですか？あてはまるものすべてお選びください。  
→回答が終わりましたら Q14 へ移動してください。

さいたま市の施設からの回答は「(SNS など) 顔見知り・井戸の持ち主、自治体以外からの情報」と「その他」（井戸のある施設が）同じ敷地にあるため」という回答だった。大垣市の施設からの回答はすべて「(SNS など) 顔見知り・井戸の持ち主、自治体以外からの情報」だった。

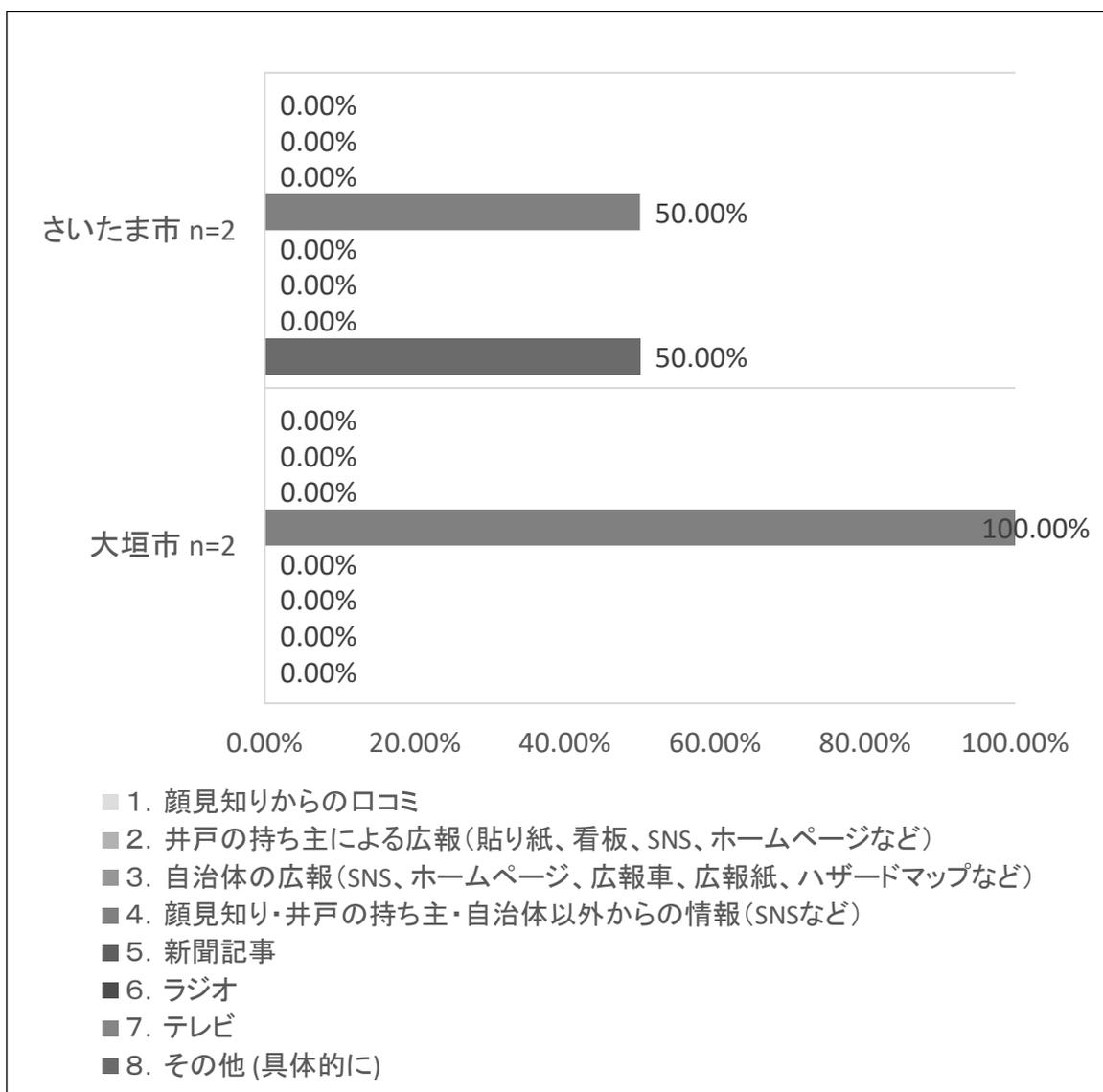


図 2-2-7 井戸の所在の把握方法

Q13 Q7で「2」(近隣の井戸を利用する計画はない)を選んだ方のみ回答してください。  
その理由は何ですか？あてはまるものすべてお選びください。

両地域とも「近隣に井戸があるかどうか把握していない」が最多の結果となった。

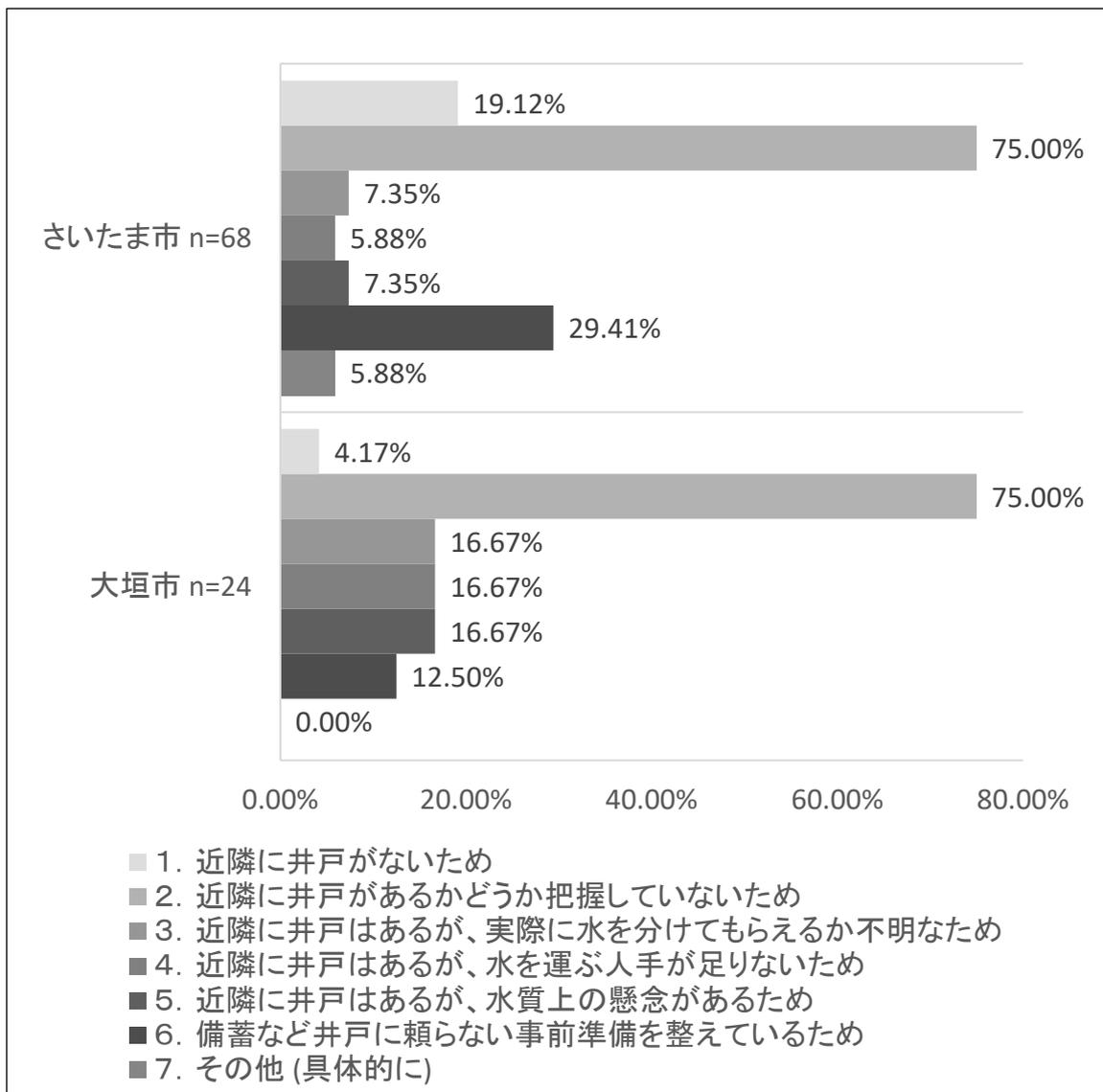


図 2-2-8 近隣井戸の活用計画を持たない理由

### 2-3 井戸以外の水確保手法

Q14 ここから災害時の水確保方法のうち井戸以外ものについてお尋ねします。貴施設では断水の間、飲用水（調理用を含む）をどのような方法で確保する計画でしょうか?あてはまるものすべてお選びください。

両地域とも「自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる」という回答が最も多かった。他には「自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる」「自治体の給水車を利用する」という回答が多かった。

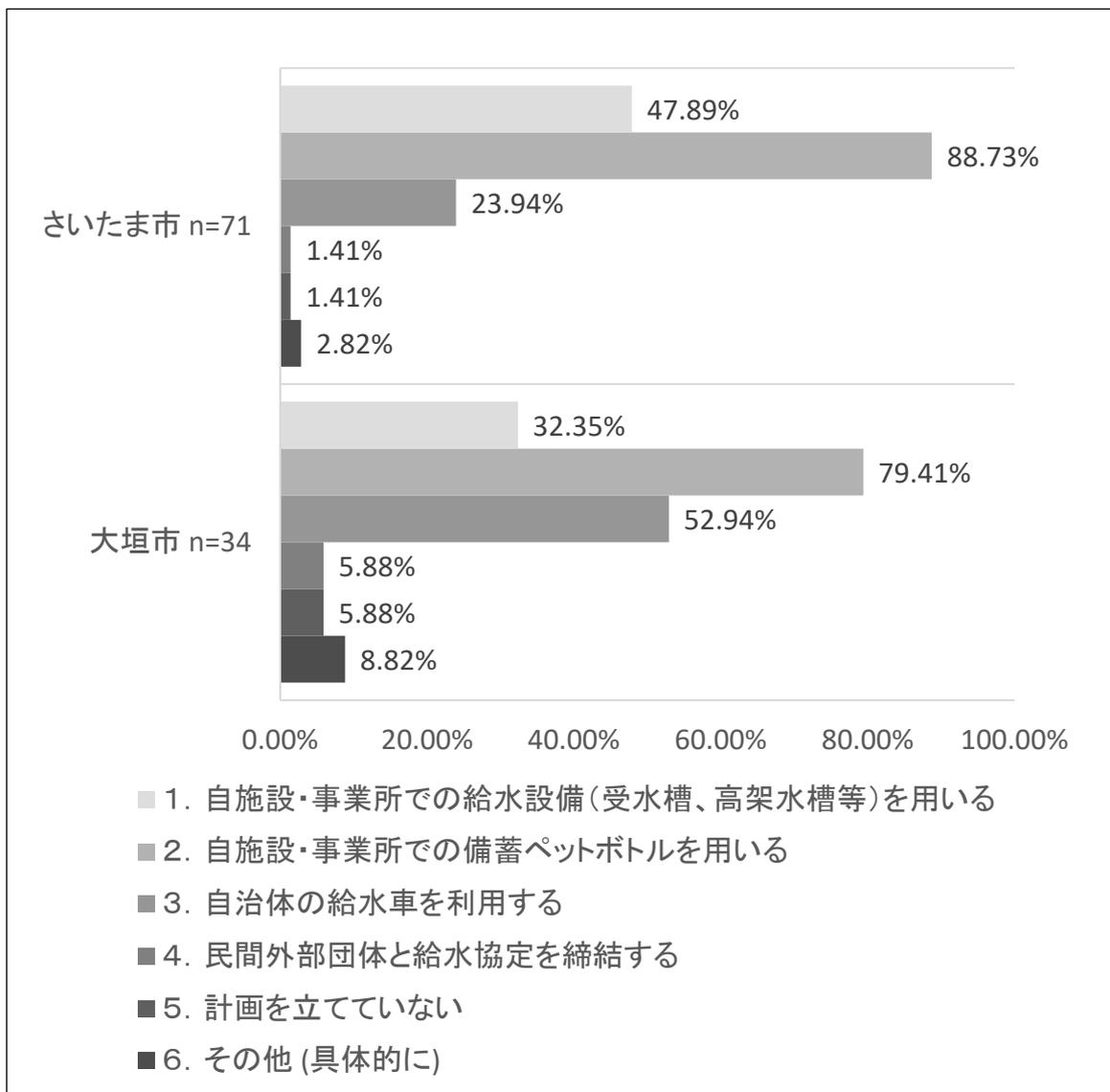


図 2-3-1 井戸以外の水確保手法（飲用水）

Q15 引き続き災害時の水確保方法のうち井戸以外ものについてお尋ねします。断水の間、生活用水（トイレ、洗濯、入浴）をどのような方法で確保する計画でしょうか？あてはまるものすべてお選びください。

両地域とも「自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる」「自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる」「自治体の給水車を利用する」という回答が多かった。ただし回答の多さの順番は異なる。

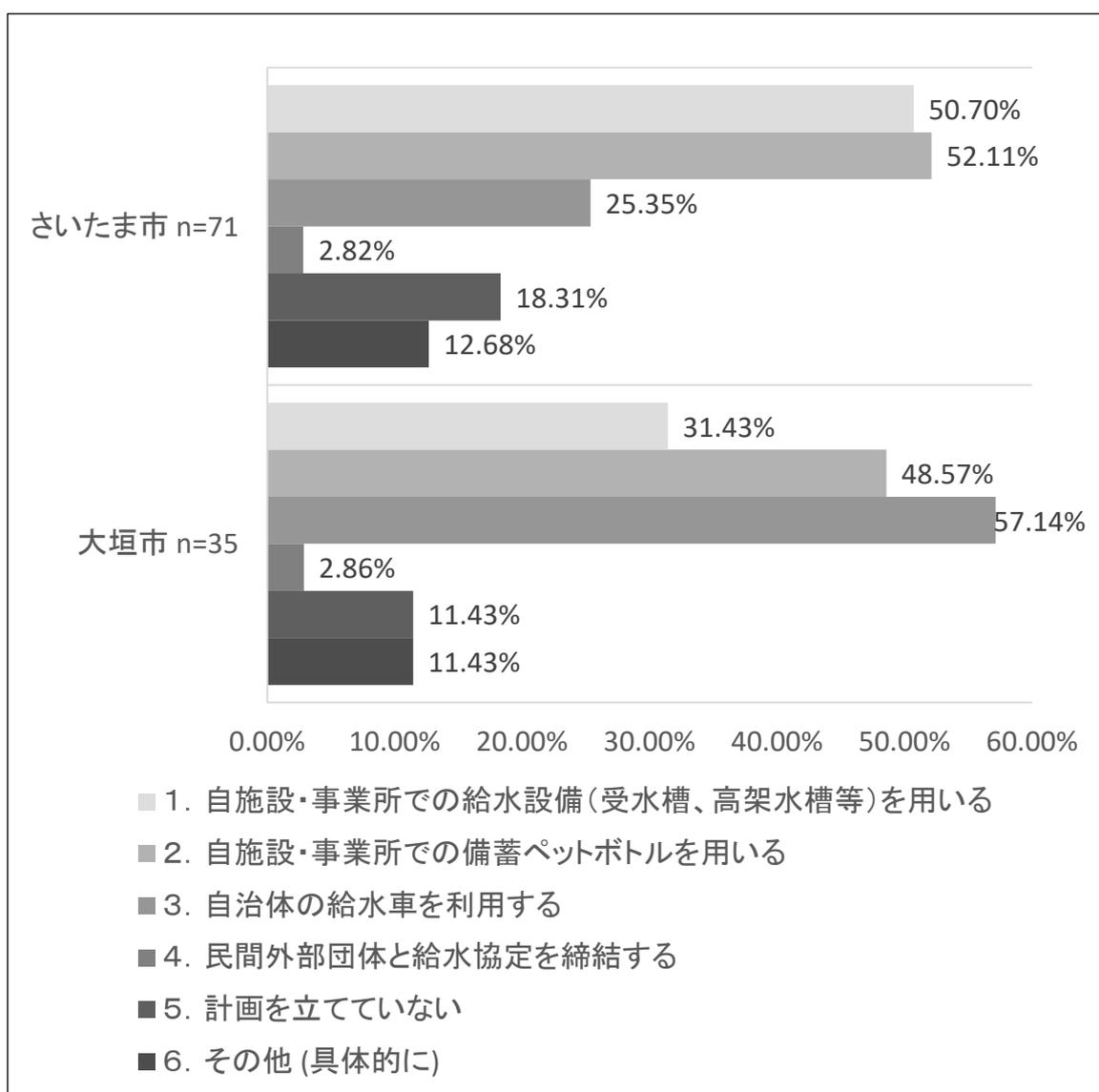


図 2-3-2 井戸以外の水確保手法（生活用水）

## 2-4 東日本大震災後の取組み

Q16 東日本大震災以降の10年で、災害時における飲用水（調理用を含む）の確保に向けて何か対策を講じましたか?あてはまるものすべてお選びください。

両地域とも「自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした」という回答が突出して多い結果となった。

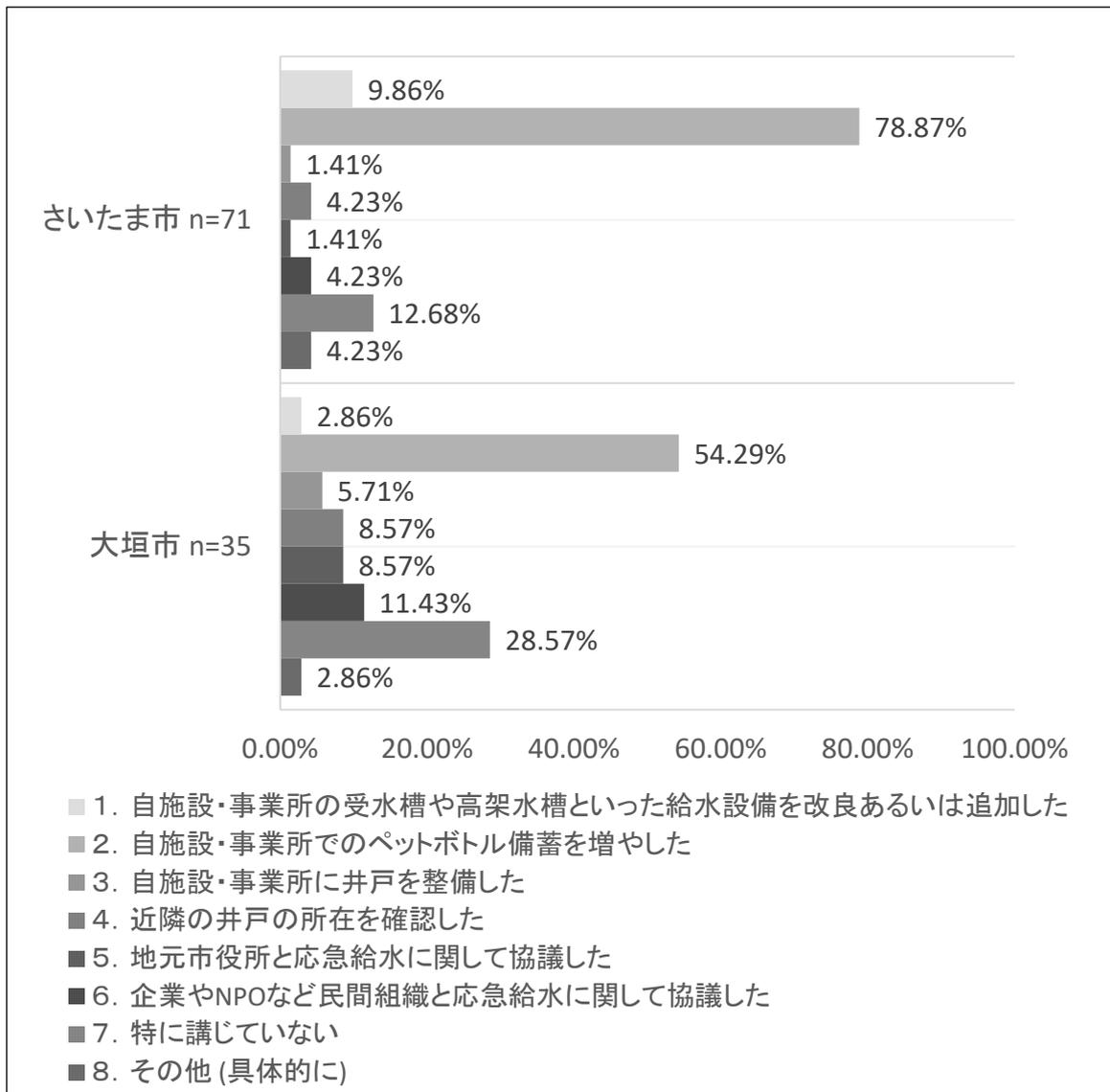


図 2-4-1 東日本大震災後の新たな取組み（飲用水確保）

Q17 東日本大震災以降の10年で、災害時における生活用水（トイレ、洗濯、入浴）の確保に向けて何か対策を講じましたか？あてはまるものすべてお選びください。

両地域とも「自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした」という回答が多い結果となった。また大垣市施設については「特に講じていない」という回答が多かった。

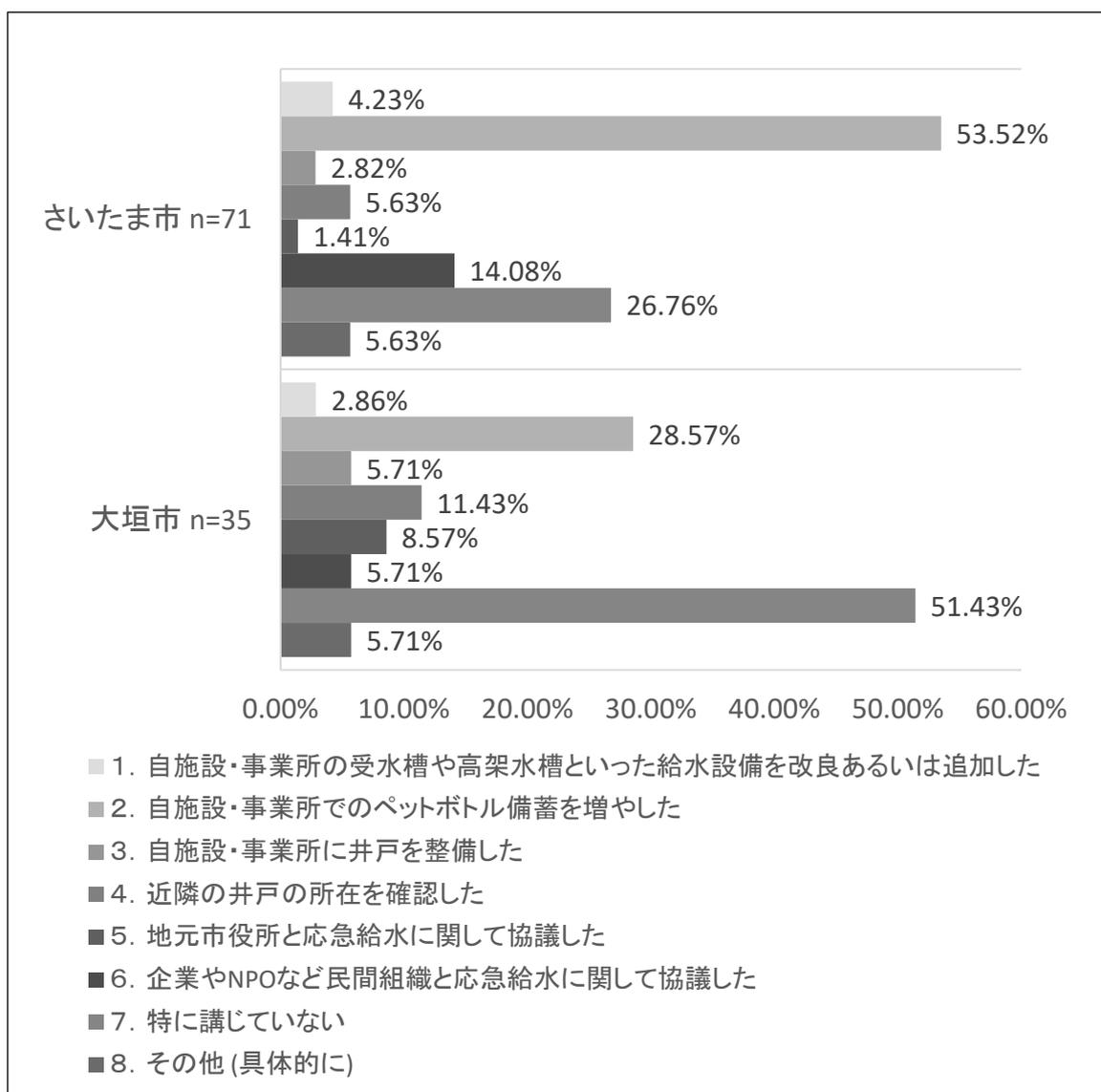


図 2-4-2 東日本大震災後の新たな取り組み（生活用水確保）

## 2-5 水確保上の懸念

Q18 地震の際、飲用水（調理用を含む）の確保で不安があれば教えてください（自由回答）

### 【さいたま市】

- ・ 3日分の確保はしているが、交通インフラ、道路等が機能しなくなった時は外部からの調達ができない為不安がある
- ・ 受水槽の水量が少なくなった時に行政に救助がスムーズに行えるのか不安。ペットボトルの備蓄も増やしているが、何日で復旧できるのかの情報を取れるよう連絡網の整備を把握したい
- ・ 入居者1週間分の飲用水は確保出来ていないこと
- ・ 入所者、職員含め110人程度を必要数が多いため行政等からの支援が滞らないか心配です
- ・ 会社の予算の関係で備蓄の水を増やしたくても増やせないのが辛い。今は飲用の備蓄はあるが最低限しかないので大規模災害が怖い。増やしたくても保管場所の問題もあるので現実問題として厳しい状況がある
- ・ 3~5日分備蓄しているが、その後長期戦になった時
- ・ 保管場所が無いので十分に備蓄できない
- ・ ペットボトル（長期保存水）の備蓄量をどれくらいにしたらいいのか、また保管場所が限られている
- ・ 最低3日分備蓄しており消費期限を確認しながら購入しているが実際それで足りるのかどうか、不足の場合、応急給水が早く対応してもらえるのか不安なところである。
- ・ 飲料水として確保があるので特になし
- ・ 確保している量が不足した場合どうすればいいか不明
- ・ 災害発生時に利用をされていた方々が、一時的に待機され安全の確認がとれ次第帰宅をして頂く為に、その間の備蓄をしているが、それ以上の日数の寝泊まりまでは想定されていない点が不安である
- ・ 正式な避難場所は他にあるが人数分の備蓄品が確保できなかった場合
- ・ ある程度、用意する必要があるとあらためて思います。ありがとうございました
- ・ 3日くらいをめぐりに給水車や配食が配られると書いてありますが本当に届くのか？
- ・ Q19も同様だが、備蓄品や給水設備で確保できる部分はあるが、それ以上の確保については不透明
- ・ 正直、調理用を含め3~4日分程度しかない為、それ以上、続くとなると厳しい。以前、井戸の工事の計画もあったが費用の問題もあり頓挫した経験がある
- ・ 何日間断水が続くのか不明の為不安
- ・ 飲用水はもちろんです、断水がいつまで続くのかによっても、備蓄品が足りないんじゃない

やないかと不安はあります

- ・水の保管場所
- ・地震の規模によるかと思いますが、上下水の復旧にどの程度の時間（日数）を要するかが気になります。
- ・実際の備蓄で不足がないか心配である

#### 【大垣市】

- ・ペットボトルの備蓄を増やす
- ・施設の管理を市より指定管理を受けているが具体的な話はない（尚、災害が生じた場合、市と検討）
- ・飲用水にも限りがあるので何か政策的に良い方法があれば伝授して欲しい
- ・飲用水は市の上水（井戸式）を希望する。本市は水源は井戸であるため安全度は高いと考える
- ・当施設は市の指定管理施設の為、必要時は市等と協議して対応する事になると思うが、現時点ではどうするかなどは決まっておらず、いざ有事が起きた時に迅速に飲用水が確保出来るが不安である
- ・大垣市は自ぶん水(井戸水)があり、月1回は、20ℓ入ボトルに5～6個くんでくる用にしている。
- ・3日分ほどの飲料水については確保できるが、災害が長引いた場合は公的機関の協力が得られるかが心配である
- ・自施設、事業所でのペットボトル備蓄を増やしたが、地震の状況が予測できないため、確保している備蓄で足りるのか心配である
- ・居宅サービスのため帰宅をしてもらうが、一時的でなく長期間となる場合は、併設の入所者の分が不足となるのが不安
- ・施設収容人員数が多いため、貯水タンク量で足るか否かが心配
- ・1人3Lで計算して準備しているが有事の際に足りるのか心配
- ・「電力供給の問題」「復旧までの期間の問題」地震と言った大規模災害の発生の際には水道設備単独の被害はあり得ず、電力の供給が停止すれば施設レベルの井戸は、自噴水ではないため、井戸は使用不可能となり、災害対策も想定の外を出ない。3日間の想定を指導されているが、社会福祉法人としては200時間程度は、自力で何とかしなければと考えているが、これも想定の外に過ぎない
- ・断水の期間。3日分は確保しているが、それ以上は不可

Q19 地震の際、飲料水以外の水（トイレ、洗濯、入浴）の確保で不安があれば教えてください（自由回答）

【さいたま市】

- ・3日分の確保はしているが、交通インフラ、道路等が機能しなくなった時は外部からの調達ができない為不安がある
- ・受水槽水量に頼っているので復旧出来るまで給水車に頼らざるを得ないと思います。今後、防災井戸も考えて行きたいと思います
- ・備蓄用3日間分は確保しており、大きい災害時には学校に避難する予定です。長い断水時の対応については改めてどこで水を確保するのか今後考えていきたいです。近隣の井戸も含めて
- ・雨水用のマンホールより利用できればかと・・・
- ・とりあえず短期で断水が終わる前提で飲料水のみ確保しているだけなので不安があります
- ・当施設は介護等の必要がない元気な高齢者が日中（AM9~PM5）自由に利用する施設となります。災害時は指定の避難所に利用者の方は行くこととなり24時間体制で何かをする施設ではありません
- ・飲用水の問題はとりあえず備蓄があるので大丈夫ですが、生活用水は全く備えていないので心配です
- ・保管場所が無いため十分に備蓄できない
- ・井戸水がちゃんと汲めるか心配。大地震後、井戸が枯れることがあると聞いています
- ・生活用水については積極的に活用できる方法、知識を得なければならないと思う
- ・生活用水についての確保はほとんど進んでおらず、今後具体的な計画を立てるため、検討が必要である
- ・飲料水としての確保の為、断水が長期化する場合、生活用水として量が足りるか不安
- ・飲用水はペットボトル備蓄である程度対応可能とは思いますが、生活用水となると、ペットボトルでは難しいことが推測できます。こういった方法をとればよいのか不安です
- ・確保している量が不足した場合どうすればいいか不明
- ・上水道他ライフラインが途絶えない限り、災害時には有効な休憩スペースや入浴場所があるため行政と連携をし、近隣の住民に居場所の提供が出来れば良い
- ・正式な避難場所は他にあるが人数分の備蓄品が確保できなかった場合
- ・トイレの水はないと困ると思いますが、最悪の時はオムツ、パット等で簡易トイレを作成しようと思います
- ・ある程度の確保はしていますが、量としてはどれくらいあれば良いかわからない。100名もしくは1名でどれくらいの確保がいるのか明確にしてほしい。（飲み水にはありますが、生活用水はあまり見かけない為）
- ・入浴施設のための水の確保は不安です

- ・当施設は利用施設です。飲料水については、利用者数、職員数を勘案して備蓄していますが、トイレの水の確保について、受水槽の利用は考えられるが、検討したい
- ・災害時の対応として、この備蓄で十分なのかどうか不安である。全国統一で、地域や自治体との共通のシステムなどがあると安心できる
- ・生活用水の1日の使用量に対する備蓄が十分ではない。防災井戸については検討するが、その他にどのようにして確保し、どこに備蓄するのかがわからない

#### 【大垣市】

- ・地元、市役所と協議していこうと思います
- ・施設の管理を市より指定管理を受けているが具体的な話はない（尚、災害が生じた場合、市と検討）
- ・飲用水以外の水にも限りがあるので何か政策的に良い方法があれば伝授して欲しい
- ・井戸はあるが電気でのポンプ式井戸のため停電すると井戸水の供給ができなくなる。自家発電機はあるが停電時ポンプまで稼働する容量の大きい自家発電機は設置していない。容量の大きいものは高額なため買い替えることは難しい
- ・近隣に農業用井戸がるが災害時利用可能と考える
- ・Q18の内容と変わらず、飲用水は、ペットボトル等の水を購入したりすれば解決できるかもしれないが、生活用水の確保はどうすれば良いのか不安である
- ・飲料水の確保はできているが断水した場合に洗濯や入浴の水分の確保方法に不安がある（トイレはパットやオムツがあるため心配ない）
- ・足りなくなる事
- ・まず飲用を優先して使用するため、生活用水まで回せるか心配
- ・近隣の自噴水の使用予定だが、供給方法等含め、実際活用出来るか不安
- ・4事業所分、封筒いただいておりますが、一回の回答にて申し訳ありません。日本中のどのような優良施設であっても同様であるが、どれだけ生命の維持を図るかに限定して、サービス提供の質を落とすかにかかっている。24時間以内の断水以上は、全ての設備、サービス提供は職員の献身的努力に依存せざるを得ず、可能な限り対応策は考え具体化しようとしているが、予算が潤沢にあるのではなく、BCP計画は策定していても、最も優しい災害の想定に過ぎないのは心苦しい。この点も運営母体が、県や国でもない限り例外はないと考える
- ・排水の問題。水は確保出来ても、排水管が破損していたら流さない

### I I I . 資料

Q1 回答者様の団体名と所在地をご記入ください。

本回答については省略する。

Q2 貴施設の現在の給水設備をお尋ねします。井戸をお持ちですか？下記から一つだけ選択してください。→「1」を選んだ方は Q3 説明文へ、「2」を選んだ方は Q6 説明文へ進んでください。

さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 井戸を持っている	4.11%	3
2. 井戸を持っていない	95.89%	70
	<b>Answered</b>	<b>73</b>
	<b>Skipped</b>	<b>0</b>

大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 井戸を持っている	38.89%	14
2. 井戸を持っていない	61.11%	22
	<b>Answered</b>	<b>36</b>
	<b>Skipped</b>	<b>0</b>

Q3 【Q2で「1」（井戸を持っている）を選んだ方のみ回答してください】

説明文：日本の市区町村の中には、井戸を持つ一般家庭・企業・事業所等が、災害時に井戸水を自家利用するだけでなく、近隣住民にも提供するボランティア登録のしくみを導入しているところがあります。これは広く防災井戸と呼ばれています。これを念頭に、以下の質問にご回答ください。まず防災井戸というしくみの認知度をお尋ねします。貴施設が位置する市区町村が実際に防災井戸を導入しているかどうかは別として、このしくみの存在自体は知っていましたか？下記から一つだけ選択してください。

さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 知っていた	0.00%	0
2. 知らなかった	100.00%	3
	<b>Answered</b>	<b>3</b>
	<b>Skipped</b>	<b>70</b>

大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 知っていた	35.71%	5
2. 知らなかった	64.29%	9
	<b>Answered</b>	<b>14</b>
	<b>Skipped</b>	<b>22</b>

Q4 災害時における井戸水提供への協力意向についてお尋ねします。井戸をお持ちのことですが、貴施設は外部からの依頼があれば、井戸からくみ上げた地下水を近隣に提供しますか？下記から一つだけ選択してください。

さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 提供する	100.00%	3
2. 提供しない	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>3</b>
	<b>Skipped</b>	<b>70</b>

大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 提供する	100.00%	13
2. 提供しない	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>13</b>
	<b>Skipped</b>	<b>23</b>

Q5 今度は災害時における井戸の自家利用についてお尋ねします。井戸をお持ちのことですが、災害時その地下水は何に使うご予定ですか？下記から一つだけ選択してください。

さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 飲用（調理を含む）	0.00%	0
2. 生活用（トイレ、洗濯、入浴）	0.00%	0
3. 消火用	0.00%	0
4. 飲用と生活用	33.33%	1
5. 飲用と消火用	0.00%	0
6. 生活用と消火用	33.33%	1
7. 飲用と生活用と消火用	33.33%	1
8. 災害時に井戸を使う予定はない	0.00%	0
9. その他（具体的に）	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>3</b>
	<b>Skipped</b>	<b>70</b>

大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 飲用（調理を含む）	0.00%	0
2. 生活用（トイレ、洗濯、入浴）	7.69%	1
3. 消火用	0.00%	0
4. 飲用と生活用	38.46%	5
5. 飲用と消火用	0.00%	0
6. 生活用と消火用	23.08%	3
7. 飲用と生活用と消火用	23.08%	3
8. 災害時に井戸を使う予定はない	0.00%	0
9. その他（具体的に）	7.69%	1
	<b>Answered</b>	<b>13</b>
	<b>Skipped</b>	<b>23</b>

Q6 【Q2で「2」（井戸を持っていない）を選んだ方のみ回答してください】

説明文：日本の市区町村の中には、井戸をもつ一般家庭・企業・事業所等が、災害時に井戸水を自家利用するだけでなく、近隣住民にも提供するボランティア登録のしくみを導入しているところがあります。これは広く防災井戸と呼ばれています。ここから貴施設が災害時にこうした外部の井戸を利用するご意向があるかどうか等の質問をさせていただきます。これを念頭に、以下の質問にご回答ください。まず防災井戸というしくみの認知度をお尋ねします。貴施設が位置する市区町村が実際に防災井戸を導入しているかどうかは別として、このしくみの存在自体は知っていましたか？下記から一つだけ選択してください。

さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 知っていた	32.86%	23
2. 知らなかった	67.14%	47
	<b>Answered</b>	<b>70</b>
	<b>Skipped</b>	<b>3</b>

大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 知っていた	14.29%	3
2. 知らなかった	85.71%	18
	<b>Answered</b>	<b>21</b>
	<b>Skipped</b>	<b>15</b>

Q7 災害時の地下水利用への意向をお尋ねします。貴施設は断水への備えとして、近隣の井戸を利用する計画をお持ちですか？下記から一つだけ選択してください。→「1」を選んだ方は Q8 へ、「2」を選んだ方は Q13 へ進んでください。

さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 近隣の井戸を利用する計画を持っている	2.86%	2
2. 近隣の井戸を利用する計画はない	97.14%	68
	<b>Answered</b>	<b>70</b>
	<b>Skipped</b>	<b>3</b>

大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 近隣の井戸を利用する計画を持っている	8.00%	2
2. 近隣の井戸を利用する計画はない	92.00%	23
	<b>Answered</b>	<b>25</b>
	<b>Skipped</b>	<b>11</b>

Q8 Q7で「1」（近隣の井戸を利用する計画を持っている）を選んだ方のみ回答してください。その水は何に利用しますか？下記から一つだけ選択してください。

さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 飲用（調理を含む）	0.00%	0
2. 生活用（トイレ、洗濯、入浴）	100.00%	2
3. 消火用	0.00%	0
4. 飲用と生活用	0.00%	0
5. 飲用と消火用	0.00%	0
6. 生活用と消火用	0.00%	0
7. 飲用と生活用と消火用	0.00%	0
8. その他（具体的に）	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>71</b>

大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 飲用（調理を含む）	0.00%	0
2. 生活用（トイレ、洗濯、入浴）	0.00%	0
3. 消火用	0.00%	0
4. 飲用と生活用	0.00%	0
5. 飲用と消火用	0.00%	0
6. 生活用と消火用	100.00%	2
7. 飲用と生活用と消火用	0.00%	0
8. その他（具体的に）	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>34</b>

Q9 Q7で「1」（近隣の井戸を利用する計画を持っている）を選んだ方のみ回答してください。井戸の場所まで調べましたか？下記から一つだけ選択してください。→「1」を選んだ方はQ10へ、「2」「3」を選んだ方はQ14へ進んでください。

#### さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 井戸の場所まで調べて、場所も特定した	100.00%	2
2. 井戸の場所まで調べたが、場所の特定には至っていない	0.00%	0
3. 井戸の場所まで調べてはいない	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>71</b>

#### 大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 井戸の場所まで調べて、場所も特定した	100.00%	2
2. 井戸の場所まで調べたが、場所の特定には至っていない	0.00%	0
3. 井戸の場所まで調べてはいない	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>34</b>

Q10 Q9で「1」（井戸の場所まで調べて、場所も特定した）を選んだ方のみ回答してください。どなたの井戸ですか？あてはまるものすべてお選びください。

#### さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 戸建てにお住まいの方	50.00%	1
2. 集合住宅にお住まいの方	0.00%	0
3. 工場	0.00%	0
4. 個人商店	0.00%	0
5. 商業施設（スーパー・百貨店・ショッピングモール）	0.00%	0
6. 企業ビル	0.00%	0
7. 自治会の集会所	0.00%	0
8. 学校	0.00%	0
9. 市役所	0.00%	0
10. 誰の井戸かわからない	0.00%	0
11. その他(具体的に)	50.00%	1
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>71</b>

#### 大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 戸建てにお住まいの方	50.00%	1
2. 集合住宅にお住まいの方	0.00%	0
3. 工場	0.00%	0
4. 個人商店	0.00%	0
5. 商業施設（スーパー・百貨店・ショッピングモール）	0.00%	0
6. 企業ビル	0.00%	0
7. 自治会の集会所	0.00%	0
8. 学校	0.00%	0
9. 市役所	0.00%	0
10. 誰の井戸かわからない	0.00%	0
11. その他(具体的に)	50.00%	1
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>34</b>

Q11 Q9で「1」（井戸の場所まで調べて、場所も特定した）を選んだ方のみ回答してください。その井戸がある場所は貴施設からどれくらいの距離でしょうか？下記から一つだけ選択してください。複数場所がある場合、最も遠い場所を想定して、下記から1つお選びください。

さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 徒歩で5分未満	100.00%	2
2. 徒歩で5分以上～10分未満	0.00%	0
3. 徒歩で10分～20分未満	0.00%	0
4. 徒歩で20分以上	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>71</b>

大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 徒歩で5分未満	100.00%	2
2. 徒歩で5分以上～10分未満	0.00%	0
3. 徒歩で10分～20分未満	0.00%	0
4. 徒歩で20分以上	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>34</b>

Q12 Q9で「1」（井戸の場所まで調べて、場所も特定した）を選んだ方のみ回答してください。井戸の場所をどのように知ったのですか？あてはまるものすべてお選びください。→回答が終わりましたら Q14 へ移動してください。

#### さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 顔見知りからの口コミ	0.00%	0
2. 井戸の持ち主による広報（貼り紙、看板、SNS、ホームページなど）	0.00%	0
3. 自治体の広報（SNS、ホームページ、広報車、広報紙、ハザードマップなど）	0.00%	0
4. 顔見知り・井戸の持ち主・自治体以外からの情報（SNSなど）	50.00%	1
5. 新聞記事	0.00%	0
6. ラジオ	0.00%	0
7. テレビ	0.00%	0
8. その他(具体的に)	50.00%	1
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>71</b>

#### 大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 顔見知りからの口コミ	0.00%	0
2. 井戸の持ち主による広報（貼り紙、看板、SNS、ホームページなど）	0.00%	0
3. 自治体の広報（SNS、ホームページ、広報車、広報紙、ハザードマップなど）	0.00%	0
4. 顔見知り・井戸の持ち主・自治体以外からの情報（SNSなど）	100.00%	2
5. 新聞記事	0.00%	0
6. ラジオ	0.00%	0
7. テレビ	0.00%	0
8. その他(具体的に)	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>2</b>
	<b>Skipped</b>	<b>34</b>

Q13 Q7で「2」(近隣の井戸を利用する計画はない)を選んだ方のみ回答してください。  
その理由は何ですか？あてはまるものすべてお選びください。

#### さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 近隣に井戸がないため	19.12%	13
2. 近隣に井戸があるかどうか把握していないため	75.00%	51
3. 近隣に井戸はあるが、実際に水を分けてもらえるか不明なため	7.35%	5
4. 近隣に井戸はあるが、水を運ぶ人手が足りないため	5.88%	4
5. 近隣に井戸はあるが、水質上の懸念があるため	7.35%	5
6. 備蓄など井戸に頼らない事前準備を整えているため	29.41%	20
7. その他(具体的に)	5.88%	4
	<b>Answered</b>	<b>68</b>
	<b>Skipped</b>	<b>5</b>

#### 大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 近隣に井戸がないため	4.17%	1
2. 近隣に井戸があるかどうか把握していないため	75.00%	18
3. 近隣に井戸はあるが、実際に水を分けてもらえるか不明なため	16.67%	4
4. 近隣に井戸はあるが、水を運ぶ人手が足りないため	16.67%	4
5. 近隣に井戸はあるが、水質上の懸念があるため	16.67%	4
6. 備蓄など井戸に頼らない事前準備を整えているため	12.50%	3
7. その他(具体的に)	0.00%	0
	<b>Answered</b>	<b>24</b>
	<b>Skipped</b>	<b>12</b>

Q14 ここから災害時の水確保方法のうち井戸以外ものについてお尋ねします。貴施設では断水の間、飲用水（調理用を含む）をどのような方法で確保する計画でしょうか?あてはまるものすべてお選びください。

#### さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる	47.89%	34
2. 自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる	88.73%	63
3. 自治体の給水車を利用する	23.94%	17
4. 民間外部団体と給水協定を締結する	1.41%	1
5. 計画を立てていない	1.41%	1
6. その他(具体的に)	2.82%	2
	<b>Answered</b>	<b>71</b>
	<b>Skipped</b>	<b>2</b>

#### 大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる	32.35%	11
2. 自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる	79.41%	27
3. 自治体の給水車を利用する	52.94%	18
4. 民間外部団体と給水協定を締結する	5.88%	2
5. 計画を立てていない	5.88%	2
6. その他(具体的に)	8.82%	3
	<b>Answered</b>	<b>34</b>
	<b>Skipped</b>	<b>2</b>

Q15 引き続き災害時の水確保方法のうち井戸以外ものについてお尋ねします。断水の間、生活用水（トイレ、洗濯、入浴）をどのような方法で確保する計画でしょうか?あてはまるものすべてお選びください。

#### さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる	50.70%	36
2. 自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる	52.11%	37
3. 自治体の給水車を利用する	25.35%	18
4. 民間外部団体と給水協定を締結する	2.82%	2
5. 計画を立てていない	18.31%	13
6. その他(具体的に)	12.68%	9
	<b>Answered</b>	<b>71</b>
	<b>Skipped</b>	<b>2</b>

#### 大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 自施設・事業所での給水設備（受水槽、高架水槽等）を用いる	31.43%	11
2. 自施設・事業所での備蓄ペットボトルを用いる	48.57%	17
3. 自治体の給水車を利用する	57.14%	20
4. 民間外部団体と給水協定を締結する	2.86%	1
5. 計画を立てていない	11.43%	4
6. その他(具体的に)	11.43%	4
	<b>Answered</b>	<b>35</b>
	<b>Skipped</b>	<b>1</b>

Q16 東日本大震災以降の10年で、災害時における飲用水（調理用を含む）の確保に向けて何か対策を講じましたか?あてはまるものすべてお選びください。

#### さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した	9.86%	7
2. 自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした	78.87%	56
3. 自施設・事業所に井戸を整備した	1.41%	1
4. 近隣の井戸の所在を確認した	4.23%	3
5. 地元市役所と応急給水に関して協議した	1.41%	1
6. 企業やNPOなど民間組織と応急給水に関して協議した	4.23%	3
7. 特に講じていない	12.68%	9
8. その他(具体的に)	4.23%	3
	<b>Answered</b>	<b>71</b>
	<b>Skipped</b>	<b>2</b>

#### 大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した	2.86%	1
2. 自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした	54.29%	19
3. 自施設・事業所に井戸を整備した	5.71%	2
4. 近隣の井戸の所在を確認した	8.57%	3
5. 地元市役所と応急給水に関して協議した	8.57%	3
6. 企業やNPOなど民間組織と応急給水に関して協議した	11.43%	4
7. 特に講じていない	28.57%	10
8. その他(具体的に)	2.86%	1
	<b>Answered</b>	<b>35</b>
	<b>Skipped</b>	<b>1</b>

Q17 東日本大震災以降の10年で、災害時における生活用水（トイレ、洗濯、入浴）の確保に向けて何か対策を講じましたか？あてはまるものすべてお選びください。

#### さいたま市

Answer Choices	Responses	
1. 自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した	4.23%	3
2. 自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした	53.52%	38
3. 自施設・事業所に井戸を整備した	2.82%	2
4. 近隣の井戸の所在を確認した	5.63%	4
5. 地元市役所と応急給水に関して協議した	1.41%	1
6. 企業やNPOなど民間組織と応急給水に関して協議した	14.08%	10
7. 特に講じていない	26.76%	19
8. その他(具体的に)	5.63%	4
	<b>Answered</b>	<b>71</b>
	<b>Skipped</b>	<b>2</b>

#### 大垣市

Answer Choices	Responses	
1. 自施設・事業所の受水槽や高架水槽といった給水設備を改良あるいは追加した	2.86%	1
2. 自施設・事業所でのペットボトル備蓄を増やした	28.57%	10
3. 自施設・事業所に井戸を整備した	5.71%	2
4. 近隣の井戸の所在を確認した	11.43%	4
5. 地元市役所と応急給水に関して協議した	8.57%	3
6. 企業やNPOなど民間組織と応急給水に関して協議した	5.71%	2
7. 特に講じていない	51.43%	18
8. その他(具体的に)	5.71%	2
	<b>Answered</b>	<b>35</b>
	<b>Skipped</b>	<b>1</b>

Q18 地震の際、飲用水（調理用を含む）の確保で不安があれば教えてください（自由回答）

この問いについては回答を省略する。

Q19 地震の際、飲料水以外の水（トイレ、洗濯、入浴）の確保で不安があれば教えてください（自由回答）

この問いについては回答を省略する。